



TITLE:

彙報 (2015年4月-2016年3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報 (2015年4月-2016年3月). 人文學報 2016, 109: 209-250

ISSUE DATE:

2016-07-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/216253>

RIGHT:

彙 報

2015年（平成27年）4月～2016年（平成28年）3月

研 究 状 況 （2015-2016年）

公募型研究班

日本宗教史像の再構築 班長 大谷栄一

研究期間 2014年4月～2017年3月（2年度目）

研究実施状況

2015年度はモダニティ／モダニゼーションと日本宗教史の関わりを中心に研究会を開催した。複製技術、マスメディア、国民国家、世俗化などをテーマとしたワークショップを企画し、12月にはヨガやレイキといった身体修養技法が宗派や国境を越境し、不断に再創造される現象について国際シンポを開催した。このほか、人文研アカデミー「日本宗教史再入門」や『人文学報』の特集号（108号）などにより研究成果を公開した。

研究班員

所内：石井美保、菊地暁、瀬戸口明久、田中雅一、藤原辰史

学外：大谷栄一（佛教大学）、板井正斉（皇學館大学）、一色哲（帝京科学大学）、岩田真美（龍谷大学）、上野大輔（慶応義塾大学）、碧海寿広（東洋大学）、岡田正彦（天理大学）、川瀬貴也（京都府立大学）、栗田英彦（日本学術振興会）、G. Clinton Godart（University of South California）、近藤俊太郎（本願寺史料研究所）、佐々充昭（立命館大学）、佐藤文子（本願寺史料

研究所）、角南聡一郎（元興寺文化財研究所）、田中悟（神戸大学）、塚田穂高（國學院大学）、對馬路人（関西学院大学）、土居浩（ものづくり大学）、永岡崇（日本学術振興会）、西嶋一泰（立命館大学）、西村明（東京大学）、長谷川雄高（大谷大学）、林淳（愛知学院大学）、福島栄寿（大谷大学）、松金直美（真宗大谷派教学研究会）、水内勇太（同志社大学）、吉永進一（国立舞鶴工業高等専門学校）、渡部圭一（琵琶湖博物館）、金泰勲（立命館大学）

研究実施内容

2015年

4月25日 シカゴ大学と私の日本研究

発表者：ケヴィン M ドーク
（ジョージタウン大学）

7月12日 第9回研究会 ワークショップ「『異端的宗教活動』の近世：キリシタン・かくれ念仏・民衆宗教」

近世日本の「邪正」と異端的宗教活動

発表者：大橋幸泰（早稲田大学）

近世日本の宗教構造—国家権力と異端的宗教活動をめぐって

発表者：井上智勝（埼玉大学）

かくれキリシタン研究から

発表者：中國成生

（平戸市生月町博物館・島の館）

「淫祠教」的救済世界の潜伏化と民衆の暴力

発表者：渡辺順一

（金光教羽曳野教会）

司会：永岡 崇

（日本学術振興会）

- 司会：日沖直子
(南山宗教文化研究所)
- 7月25日 第10回研究会
ワークショップ「近代日本のメディア
と宗教」
共同研究「近代宗教のアーカイヴ構築
のための基礎研究」の成果と課題
発表者：大谷栄一 (佛敎大学)
近現代日本の「宗教とメディア」研究
— 動向と課題 発表者：碧海寿広
(東洋大学東洋学研究所)
女性雑誌の時代 — 『新女界』に見るキ
リスト敎とジェンダー
発表者：村山由美
(南山宗教文化研究所)
大正期文学における親鸞像の変容
発表者：大澤絢子
(東京工業大学大学院 DC)
無声映画と宗教敎団 — 真宗大谷派僧
侶・沼法量を中心に
発表者：中川剛マックス
(愛知学院大学大学院)
コメンテーター：岡田正彦
(天理大学)
司会：岩田真美
(龍谷大学)
- 8月18日 特別研究会
「神智学研究サマーセミナー」
神智学が上海共同租界で行った教育事
業：ベサントのいないベサント・ス
クール 発表者：莊 千慧
(大阪大学大学院 DC)
鈴木大拙夫妻の大乗ロジ再考
発表者：吉永進一
(国立舞鶴高等工業専門学校)
- 9月12日 第11回研究会 ワークショップ
「身体と政治：近代日本の霊的な心身
技法と国家論」
『耶穌敎審判』にみる本田親徳のキリ
スト敎認識
発表者：並木英子 (国際基督教大学)

- 陽明学の近代化における身体の方行
発表者：野村英登
(二松學舎大学大学非常勤講師)
近世後期における真宗僧侶の訴願運動
発表者：小林准士 (島根大学)
岡田式静坐法にみる国家観 — 身体・
技法・霊性 — 発表者：栗田英彦
(日本学術振興会)
霊術・身体から宗教・国家への跳躍
— 三井甲之の手のひら療治 —
司会：塚田穂高
(國學院大學)
コメンテーター：永岡 崇
(日本学術振興会)
コメンテーター：師 茂樹
(花園大学)
司会：吉永進一
(国立舞鶴高等工業専門学校)
- 10月17日 第12回研究会 ワークショップ「聖
なるものとその複製」
複数性と一点性 — 遺影写真のコミュ
ニケーション — 発表者：佐藤守弘
(京都精華大学)
心霊写真と筆跡学 発表者：浜野志保
(千葉工業大学)
コメンテーター：橋本一徑
(早稲田大学)
コメンテーター：飯倉義之
(國學院大学)
コメンテーター：吉永進一
(国立舞鶴工業高等専門学校)
司会：菊地 暁
- 10月24日 第13回研究会 ワークショップ「寺
社組織の近世化を問い直す」
当山派修験寺院と天台宗の本末関係
— 近江国甲賀郡飯道寺を事例に —
発表者：藤田和敏 (大本山相国寺)
近世における宗教の世俗化を考える
発表者：幡鎌一弘
(天理大学)
司会：松金直美

- (真宗大谷派教学研究所)
司会：上野大輔
(慶應義塾大学)
- 12月12日 International Workshop
“Modernization, and Spiritual, Mental
and Physical Practices : From Yoga to
Reiki” 1st day
Shavasana : Modern Relaxation Tech-
niques and Yoga
発表者：BAIER, Karl
(University of Vienna)
- The Spiritual Body in Early Twentieth-
Century Transnational Yoga
発表者：SINGLETON, Mark
(SOAS, University of London)
- Yogi Ramacharaka : Physical Culture,
Metaphysical Tradition, and Cultural
Influence 発表者：DESLIPPE, Philip
(University of California,
Santa Barbara)
コメンテーター：伊藤雅之
(愛知学院大学)
司会：GAITANIDIS, Ioannis
(千葉大学)
- 12月13日 International Workshop
“Modernization, and Spiritual, Mental
and Physical Practices : From Yoga to
Reiki” 2nd day
Evangelizing the Body: the Catholic
Church and Traditional Martial Arts
in Indonesia
発表者：木村敏明 (東北大学)
- Recently Discovered Documents of
Nippon Shinrei Gakkai, a Japanese
Mind Cure Movement
発表者：石原深予 (神戸学院大学)
- Buddhism, Mind-Cure, and National-
ism: Fujita Reisai and his Breathing
Techniques
発表者：栗田英彦 (日本学術振興会)
- Modern Japanese Psycho-Spiritual
Therapies and the Birth of Reiki
Healing in the 1920s-1930s
発表者：平野直子
(早稲田大学)
コメンテーター：堀江宗正
(東京大学)
コメンテーター：赤井敏夫
(神戸学院大学)
司会：GAITANIDIS, Ioannis
(千葉大学)
- 2016 年
- 2 月13日 第 14 回研究会「日本宗教史像の再構
築に向けての準備体操」
話題提供 1
発表者：菊地 暁 (京都大学)
- 話題提供 2
発表者：板井正斉 (皇學館大学)
- 話題提供 3 発表者：角南聡一郎
(元興寺文化財研究所)
- 話題提供 4 発表者：土居 浩
(ものづくり大学)
- 話題提供 5 発表者：西村 明
(東京大学)
- 話題提供 6 発表者：林 淳
(愛知学院大学)
- コメンテーター：永岡 崇
(日本学術振興会)
- コメンテーター：大谷栄一
(佛教大学)
- 2 月27日 第 15 回研究会 ワークショップ「日
本宗教史資料整理の実際 ― 日本心霊
学会資料を素材として ―」
日本心霊学会資料の概要と整理上の注
意点 発表者：石原深予
(神戸学院大学)
- 本日の成果と今後の課題
発表者：栗田英彦
(日本学術振興会)
- 3 月 5 日 第 16 回研究会「弔い、そして死者と
の共闘：川村邦光と『弔いの文化史』
を読む」

書評1 発表者：黛 友明（大阪大学）

書評2

発表者：畑中小百合（大阪大学）

書評3 発表者：田中雅一（京都大学）

リブライ

発表者：川村邦光（大阪大学）

司会：永岡 崇（日本学術振興会）

人文学研究資料としての Web の可能性を再探する

班長 永崎研宣

研究期間 2013 年 4 月－2016 年 3 月（3 年度目）

研究実施状況

2015 年度は、8 回の研究会を開催するとともに、本研究所にて主催した JADH2015 国際シンポジウムの開催に協力した。研究会では、これまでに引き続き、人文学における Web の活用に関わる技術面・運用面について、公開しにくい内容も前提とした上で議論を行ない、班員全体として、Web 活用に関わる知見を深めた。さらに成果公開に向けて、ガイドラインとしての書籍を刊行すべく出版社と交渉するとともに、原稿執筆に共同で取り組み、そのなかで班員同士での認識のすりあわせを行った。とりわけ、文字コードの記述に関する議論に時間をかけ、班全体としての認識を高めるとともに、想定読者、すなわち、本研究班が課題とするテーマに取り組む層の想定と、その層に対する記述の適切さといった観点からの検討を行った。

研究班員

所内：安岡孝一、守岡知彦、クリスティアン・ウィッテルン

学内：原正一郎（地域研究統合情報センター）

学外：大向一輝（国立情報学研究所）、山田太造（東京大学）、岩崎陽一（東京大学）、宇陀則彦（筑波大学）、苫米地等流（人文情報学研究所）、後藤真（国立国語研究所）、北岡タマ子（お茶の水女子大学）、松田訓典（東京外国語大学）、高田智和（国立国語研究所）、王一凡（東京大学）

研究実施内容

2015 年

5 月15日 海外の動向とミュージアム情報の

Web 展開

ミュージアムでのドキュメンテーションに係るメタデータについて

発表者：北岡タマ子
（お茶の水女子大学）

西洋史における Web の活用：2 つの視点から

発表者：菊池信彦
（国立国会図書館関西館）

人文系 Web の要件をいかにして広めるか

発表者：永崎研宣
（人文情報学研究所）

6 月12日 Web 上の漢籍の可能性

漢籍リポジトリとマンドク的设计背景
発表者：Christian Wittern
（京都大学人文科学研究所）

人文系 Web の要件と可能性

発表者：永崎研宣
（人文情報学研究所）

7 月17日 米国における人文学 Web 情報とデジタル・ヒューマニティーズ教育

米国での英文学 DH 教育

発表者：横山説子
（ミシガン大学大学院）

人文系 Web の要件と可能性

発表者：永崎研宣
（人文情報学研究所）

8 月21日 コーパスと Web

歴史コーパスについて

発表者：小木曾智信
（国立国語研究所）

人文系 Web の要件について

発表者：永崎研宣
（人文情報学研究所）

12月15日 人文系オープンデータと Web

国文研によるオープンデータの検討

発表者：永崎研宣
（人文情報学研究所）

発表者：松田訓典
（国文学研究資料館）

Web 上で展開される人文学の現状

発表者：永崎研宣

(人文情報学研究所)

2016 年

- 1 月20日 構造化テキストの共同編集
共同通信 NewsML の開発と XML 規格の展望
発表者：竹村貴弘（共同通信社）
人文学と Web に関する共同研究班の
成果取りまとめ 発表者：永崎研宣
- 2 月24日 人文学における文字コードと Web
人文学における文字コードと Web
発表者：永崎研宣
- 3 月24日 人文学における文字コードと Web
人文学における文字コードと Web
発表者：永崎研宣

古典解釈の東アジア的展開——宗教文献を中心課題として

班長 藤井 淳

研究期間 2013 年 4 月－2016 年 3 月（3 年度目）

研究実施状況

今年度は研究班を 8 回開催した。参加者は毎回 25～35 名ほどであった。分野は中国および日本の仏教の思想・歴史・考古・美術のほか、道教思想や中国土着思想を扱った。前 2 年と同様、今年も毎回、一人の報告者と二人のコメンテーターを選定して行われた。参加者は京都市内はもちろん、北は仙台から、東京、大阪、神戸を中心に、南は熊本市に至る各地の班員が集った。各戒の具体的なテーマと内容全体については、「6. 研究成果の概要」および「7. 本年度の研究実施内容」に記す通りである。最終回の「総括」では、班長自らが 3 年を振り返り、各内容を整理して幾つかの重要な視点を設定して、反省点と今後の課題も含めて、研究班の総まとめをした。

研究班員

所内：稲葉稜、稲本泰生、ウィッテルン、クリスティアン、岡村秀典、金文京、古勝隆一、船山徹、松岡寛子

学内：宇佐美文理（文学研究科）、金志玟（人間・環境学研究科）、熊谷誠慈（こころの未来研究センター）、古勝亮（総合博物館）、デロッシュ、マルク・ヘンリ（白眉センター）、内記理（文化財総合研究セン

ター）、中西竜也（白眉センター）、宮崎泉（文学研究科）

学外：石井公成（駒澤大学）、ヴィータ、シルヴィオ（京都外国語大学）、榎本文雄（大阪大学）、小川隆（駒澤大学）、加納和雄（高野山大学）、菅野博史（創価大学）、斎藤明（東京大学）、齋藤智寛（東北大学）、坂内栄夫（岐阜大学）、末本文美士（国際日本文化研究センター）、田中健一（大阪大谷大学）、田林啓（白鶴美術館）、池麗梅（鶴見大学）、陳継東（青山学院大学）、戸次顕彰（大谷大学）、中西俊英（東大寺）、中西久味（新潟大学）、西谷功（泉涌寺）、馬場紀寿（東京大学）、松田訓典（東京外国語大学）、向井佑介（京都府立大学）、村田みお（立命館大学）、室寺義仁（滋賀医科大学）、柳幹康（日本学術振興会）、山田俊（熊本県立大学）、横手裕（東京大学）、藤井淳（駒澤大学）

研究実施内容

2015 年

- 4 月28日 夏元鼎『黄帝陰符經講義』の思想と道・佛二教 発表者：山田 隆
コメンテーター：横手 裕
コメンテーター：松森秀幸
- 5 月23日 親鸞の仏教理解 発表者：末本文美士
コメンテーター：熊谷誠慈
コメンテーター：藤井 淳
- 6 月20日 近代における東アジアの「宗教」概念 発表者：藤井 淳
コメンテーター：村田みお
コメンテーター：中西竜也
- 7 月18日 東アジアにおける本生図 発表者：田中健一
コメンテーター：向井佑介
コメンテーター：加納和雄
- 9 月12日 二つの布袋像：その伝記を中心にして 発表者：陳 継東
コメンテーター：金 文京
コメンテーター：宮崎展昌

10月10日 北魏平城期の雲岡石窟
 発表者：岡村秀典
 コメンテーター：斎藤 明
 コメンテーター：藤井 淳
 12月12日 南宋制作「涅槃（変相）図」とその儀
 礼の復元的考察 発表者：西谷 功
 コメンテーター：斎藤智寛
 コメンテーター：岡田英作

2016 年

2 月20日 研究班の総括 発表者：藤井 淳

**環境インフラストラクチャー：自然、テクノロジー、
 環境変動に関する比較研究** 班長 森田敦郎
 研究期間 2014 年 4 月－2016 年 3 月（3 年度目）
 研究実施状況

共同研究プロジェクトの最終年度である本年度は、研究成果の国際発信と総括に重点をおいて研究会を実施してきた。また、本プロジェクトを基盤として今後も持続的に共同研究を実施し、成果を発表していくための基盤形成を行った。具体的には、7 月にタイのバンコクで開催された IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) の国際大会にて本プロジェクトの成果の一部をパネル発表し、高い評価を得た。8 月 7 日、ならびに 24 日には Nicolas Langlitz と Penny Harvey を招いてワークショップを開催し、科学技術社会論、人類学、環境論に関する議論を深めるとともに、今後の国際共同研究の実施について意見交換を行った。また 8 月以降、本プロジェクトの中核概念である「環境インフラストラクチャー」の発展形として、‘Assemblages of the Future’ という概念を中心に据え、日本と海外の人類学者と科学技術社会学者をメンバーとする新たな研究プロジェクトを構想し、その助走となる研究会を通して具体的な計画を進めてきた。この新たなプロジェクトは、環境インフラストラクチャーと密接な関わりをもつテーマ（例えば災害、ケア、開発、気候変動等）を「未来」という時間性の中で考察しようとするものである。また、本研究班の成果出版のための編集作業と論文執筆を合宿形式で行った（なお、2015 年度 10 月より班長が海外研修中のため、本年度の研究会は前期に集中

的に実施し、後期は主に成果の刊行に向けた執筆・編集作業を行っている）。

研究班員

所内：石井美保、鈴木和歌奈、瀬戸口明久

学内：森下翔（人間環境学研究科・博士後期課程）

学外：中川理（立教大学）、松村圭一郎（立教大学）、木村周平（筑波大学）、大村敬一（大阪大学大学院）、中空萌（東京大学大学院）、Casper Bruun Jensen (IT University of Copenhagen/Kyoto University)、Brit Ross Winthereik (IT University of Copenhagen)、齋藤紋衣子 (Univrsity of Copenhagen)、上杉健志（富士常葉大学）、古川不可知（大阪大学）、難波美芸（一橋大学）

研究実施内容

2015 年

4 月13日 2015 in preparation of Assemblages of the Future application

Reports on the Core-group meeting in March/Outline of the current proposal

発表者：Casper Bruun Jensen (IT University of Copenhagen)

発表者：石井美保（京都大学）

発表者：森田敦郎（大阪大学）

7 月 4 日 「環境インフラストラクチャー」と「在来知 & 近代科学」合同研究会

「イメージの人類学」のための理論的
 コラージュ」 発表者：箭内 匡

（東京大学）

コメンテーター：中川 理

（立教大学）

コメンテーター：大村敬一

（大阪大学）

7 月15日 IUAES Inter-Congress 2015 Re-imagining Anthropological and Sociological Boundaries

IUAES2015 Panel Proposal—Towards an Anthropology of the Amphibious, Shifting Boundaries in the Era of Climate Change

- 発表者：Atsuro Morita
(Osaka University)
- 発表者：Jakkrit Sangkhamanee
(Chulalongkorn University)
- 発表者：Casper Bruun Jensen
(IT University of Copenhagen)
- 8月6日 Assemblages of the Future project
development meeting
Presentation of the draft proposal
司会：Atsuro Morita
(Osaka University)
- The Politics of Energy Transition Post-Fukushima: Anthropological Lessons from Europe and North America
発表者：Dominic Boyer
(Rice University)
- 発表者：Cymene Howe
(Rice University)
- 発表者：Casper Bruun Jensen
(Kyoto University/
Leicester University)
- コメンテーター：Daniel White
(Hosei University)
- 司会：Franz Waldenberger
(German Institute for
Japanese Studies)
- 8月7日 STS Workshop with Nicolas Langlitz
Temporal scaling from cells to speculation: abduction, care and materiality 発表者：Wakana Suzuki
(Kyoto University)
- コメンテーター：Nicolas Langlitz
(The New School)
- Fieldwork in Perennial and Neurophilosophy 発表者：Nicolas Langlitz
(The New School)
- 8月17日 今後の共同研究についての打ち合わせ
& 本研究班の成果出版のための編集作業、序文執筆 (2015-0817~0823)
今後の共同研究についての打ち合わせ
本研究班の成果出版のための編集作業、
- 序文執筆 発表者：Penny Harvey
(University of Manchester)
- 発表者：Atsuro Morita
(Osaka University)
- 発表者：Wakana Suzuki
(Kyoto University)
- 発表者：Fukachi Furukawa
(Osaka University)
- 8月24日 Infrastructures, Agency and Vulnerability workshop
Infrastructures, Agency and Vulnerability workshop
司会：Atsuro Morita
(Osaka University)
- 発表者：Penny Harvey
(University of Manchester)
- 発表者：Casper Bruun Jensen
(Kyoto University/
Leicester University)
- 発表者：Fukachi Furukawa
(Osaka University)
- 発表者：Miki Namba
(Hitotsubashi University)
- チベット・ヒマラヤ文明の史的展開の学際的研究
班長 岩尾一史
- 研究期間 2015年4月~2018年3月(1年度目)
- 研究実施状況
- [研究会と研究報告]: 本年度は合計で8回の研究会を行うことができた。班員それぞれの研究関心に沿った研究報告を依頼し、歴史学、文化人類学、言語学の各分野から、古代~現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究報告を聞くことができた。本年度の特徴として報告者の半数が関西以外の研究者によるものであり、国内における研究者の交流を促進することにも成功したといえる。また議論の時間を出来るだけ多く取ったことにより、異分野からの情報提供・意見交換をより活発に行うことにも成功した。各回の具体的な内容は以下の実施内容を参照されたい。
- [成果報告の打ち合わせ]: 本研究班の成果報告を

どのように公開し出版すべきかについて、研究会上において打ち合わせを複数回行った。また11/21の研究會開催時には、実際に某出版社の編集者も打ち合わせに参加し、より具体的な形で出版打ち合わせを行うことができた。

研究班員

所内：池田巧，稲葉穰

学内：熊谷誠慈（こころの未来研究センター），マルク＝アンリ・デロッシュ（総合生存学館），安田章紀（文学部）

学外：武内紹人（神戸市外国語大学），西田愛（神戸市外国語大学），大川謙作（日本大学），別所裕介（広島大学），星泉（東京外国語大学），根本裕史（広島大学），池尻陽子（筑波大学），海老原志穂（東京外国語大学），山本明志（大阪国際大学），小西賢吾（金沢星稜大学），山本達也（静岡大学），小野田俊蔵（佛教大学），三宅伸一郎（大谷大学），小松原ゆり（明治大学），村上大輔（早稲田大学），井内真帆（神戸市外国語大学），加納和雄（高野山大学）

研究実施内容

2015 年

- 4 月18日 クニイック写本解凍清書時に発生する異読の可能性
発表者：小野田俊蔵（佛教大学）
- 5 月23日 チベット帝国と青海東部
発表者：岩尾一史（神戸市外国語大学・非常勤）
- 6 月20日 チベット旧社会における村落形態の諸類型
発表者：大川謙作（日本大学）
- 7 月18日 文献に刻まれるチベット語の歴史変化の足跡
発表者：星 泉（東京外国語大学）
- 9 月18日 チベット文明形成期の特徴：他文明とくに西アジアとの関係
発表者：武内紹人（神戸市外国語大学）
- 10月10日 「作る／パクリ」とコピー・ライト：チベタン・ポップから考えるチベット

難民社会の所有感覚の動態

発表者：山本達也（静岡大学）

- 11月21日 Neo-Tibetanization：ポスト王政期ネパールにおける“仏教の政治”とヒマラヤ仏教徒

発表者：別所裕介（広島大学）

- 12月19日 寺本婉雅の再評価：新出資料から
発表者：三宅伸一郎（大谷大学）

2016 年

- 3 月18日 研究打合せ（研究班の今後／班員の拡充／研究成果の出版）
- 3 月19日 モンゴル時代のチベットにおける在地氏族と官称号

発表者：山本明志（大阪国際大学）
古い文書の中の神格 — その効果と意義について —
発表者：西田 愛

（神戸市外国語大学・非常勤）
チベット領有のエスノグラフィー：土地と神霊をめぐる村落社会の実践と語り
発表者：別所裕介（広島大学）
ボン教における「僧侶」の諸相 —— 生業，戒律，儀礼をめぐる

発表者：小西賢吾（金沢星稜大学）

東アジア伝統医療文化の多角的考察

班長 大形 徹

研究期間 2014 年 4 月－2017 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

東アジア伝統医療の全体像とその文化的特色を構造的に把握するために、医者、鍼灸師、薬剤師、医学史研究者に加えて諸領域の人文科学研究者を結集して研究集会を開催し、『医心方』の会読と特別講演、研究発表を行った。昨年度末から取り組んでいる課題として、『医心方』『医方類聚』『傷寒論』を中心に古医書研究のあり方を議論し、それらの世界記憶遺産登録等の必要性を協議するとともに、現代医療にどのような提言が発信できるかについて検討を加えた。ゲストスピーカーには、北京中医薬大学の梁嶸教授、上海中医薬大学の張如青教授をはじめとする著名な医学史家を招聘した。年明けには、北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部、兵庫医科大学

中医薬孔子学院と共催で国際ワークショップを企画し、医学史研究の泰斗である黄龍祥、小曾戸洋、真柳誠3氏を含む公開講演会を行い、100名を超える聴衆を集めた。また、3月には、国文学研究資料館主導共同研究プロジェクト（研究代表：陳捷教授）と合同で国際ワークショップを企画し、富士川文庫を中心とする古医書を調査し、附属図書館が推進しようとしているデータベース化事業の諸問題を討議し、さらに台湾、韓国の研究者を招いて東アジア科学史の特別講演会を開催した。

研究班員

所内：高井たかね、武田時昌、Bill Mak（麦文彪）
 学内：小泉昭夫（医学研究科教授）、原田浩二（医学研究科・准教授）
 学外：安部郁子（財研医会・研究員）、家本句二（関西医療学園専門学校・教員（大阪府立大学人間社会学研究科修士課程））、池内早紀子（漢方薬店経営（大阪府立大学人間社会学研究科修士課程））、王財源（関西医療大学・教授）、桐浴眞智子（大阪医科大学）、島山奈緒子（明治国際医療大学大学院 O.D.）、多田伊織（鈴鹿医療大学・非常勤講師）、中吉隆之（関西医療大学）、葉山美知子（鎌倉早見美容芸術専門学校）、平地治美（千葉大学）、前田その子（前田鍼灸院）、松岡尚則（財研医会）、真柳誠（茨城大学）、三鬼丈知（近畿大学・非常勤講師）、横山浩之（森ノ宮医療学園）、梁嶸（国際日本文化研究センター・外国人研究員（北京中医薬大学基礎医学院中医診断系・教授））、渡邊真弓（新潟大学（筑波技術大学・客員研究員））、奈良上眞（大阪医療技術学園専門学校）、趙ウニル（京都大学）、森村謙一（薬学博士）、岩間眞知子（日中茶文化研究家）、半井英江（京都医療文化サロン協賛会・代表）、相川佳子（奈良女子大学）、今井環（大阪府立大学）、閻淑珍（帝京大学）、郭秀梅（順天堂大学）、古藤友子（国際基督教大学）、酒井シヅ（順天堂大学）、坂出祥伸（関西大学・森ノ宮医療大学）、館野正美

（日本大学）、長野仁（森ノ宮医療大学）、名和敏光（山梨県立大学）、蓑輪圭一郎（京都大学）、宮崎順子（関西大学）、宮島一彦（同志社大学）、渡邊賢一（関西大学）、松木宣嘉（四国医療専門学校）、大平桂一（大阪府立大学）、木崎香織（大阪府立大学）、林みどり（関西医療大学）、石井行雄（北海道教育大学釧路校）

研究実施内容

2015 年

- 6月7日 『胎産書』『十問』などの訳注を通して
 見えてきたもの 発表者：大形 徹
 （大阪府立大学・教授）
 『医心方』に魅せられて
 発表者：槇佐知子（作家）
- 7月5日 臨床医に生きた曲直瀬玄朔とその周辺
 発表者：葉山美知子
 （鎌倉早見美容芸術専門学校・非常勤）
 漢方薬の症例呈示、および雲海士流について 発表者：松岡尚則（医師）
 舌診の歴史について
 発表者：梁 嶸
 北京中医薬大学・教授）
- 10月10日 『医心方』訓読作成プロジェクトに向けて（1） 発表者：伊藤裕水
 （京都大学文学研究科 D2）
 発表者：島山奈緒子
 （明治国際医療大学・O.D.）
 知徳から行徳へ 発表者：遠藤次郎
 （東京理科大学薬学部・名誉教授）
- 11月3日 『医心方』訓読作成プロジェクトに向けて（2） 発表者：伊藤裕水
 （京都大学文学研究科・D2）
 発表者：島山奈緒子
 （明治国際医療大学 O.D.）
 『諸病源候論』の風病に関する『医心方』への影響を巡って
 発表者：越智秀一
 （順天堂大学医史学研究室・研究生）
 出土医学文献整理研究の回顧、現状と展望 発表者：張 如青

- (上海中医薬大学中医文献研究所・教授)
- 2016 年
- 1 月 9 日 伝統医療文化国際ワークショップ
2016-1「鍼灸道 未来への軌跡」
『医心方』巻六選読
発表者：島山奈緒子
(明治国際医療大学・O.D.)
古訓で読む『医心方』
発表者：伊藤裕水
(京都大学文学研究科・D2)
司会：大形 徹
(大阪府立大学・教授)
開会挨拶 発表者：新家莊平
(学校法人兵庫医科大学・理事長)
漢方研究 60 年 発表者：小曾戸洋
(北里大学東洋医学総合研究所
医史学研究部・部長)
古典針灸学の世界 ― 求真と求解
発表者：黄 龍祥
(中国中医科学院針灸研究所・研究員)
コメンテーター：猪飼祥夫
学術史研究における日本漢学と医学史
発表者：町泉寿郎
(二松學舎大学・教授)
伝統医療の未来を拓く
発表者：真柳 誠 (茨城大学・教授)
- 2 月 7 日 四川成都老官山の医学書概観
発表者：猪飼祥夫 (猪飼鍼灸)
和漢診療学・あたらしい知の創造
発表者：寺澤捷年
(千葉中央メディカルセンター
和漢診療科・部長)
- 3 月 5 日 東アジア伝統医療文化ワークショップ
2016-3 (1 日目)
東アジア伝統医療文化ワークショップ
富士川文庫のデータベース化
発表者：赤澤久弥
(京都大学附属図書館情報
サービス課・課長補佐)
京大富士川文庫探訪記
- 発表者：長野 仁
(森ノ宮医療大学大学院・教授)
古医書データベース化構想の諸問題
発表者：武田時昌
(京都大学人文科学研究所・教授)
司会：陳 捷
(国文学研究資料館・教授)
- 3 月 6 日 「東アジアの技術的伝統への再照射」
国際ワークショップ 2 日目
東アジア科学技術史国際シンポジウム
〈第 1 セッション：伝統医療〉
「古訓で読む『医心方』(3) 巻 8 脚
気形状第 2 発表者：伊藤裕水
(京都大学文学研究科・D2)
コメンテーター：石井行雄
(北海道教育大学釧路校・准教授)
中国按摩推拿医学の週及的考察
発表者：大形 徹
(大阪府立大学・教授)
発表者：李 強
(大阪物療大学・准教授)
〈第 2 セッション：天文暦学〉
文本的射影：文抄与西方暦算学的伝播
発表者：祝 平一
(台湾中央研究院歴史語言研究所・
研究員)
コメンテーター：宮島一彦
(同志社大学嘱託・講師、
中之島科学研究所・嘱託研究員)
〈第 3 セッション：朝鮮医学〉
東アジアにおける許浚『東医宝鑑』の
流布について 発表者：朴 現圭
(韓国順天郷大学・教授)
コメンテーター：吉田和裕
(順天堂大学医学部医史学研究室・
研究員)
朝鮮医学史研究の概観と近年の動向
発表者：任 正嬭
(朝鮮大学校・教授)
コメンテーター：安 相佑
(韓国韓医学研究院・責任研究員)

総合討論「伝統科技典籍の近世的伝播」
 司会：武田時昌
 (京都大学人文科学研究所・教授)

人文学研究部

別研究員), 上尾真道 (立命館大学), 上田和彦 (関西学院大学), 遠藤乾 (北海道大学), 大津留厚 (神戸大学), 小野塚知二 (東京大学), 小野寺史郎 (埼玉大学), 田辺明生 (東京大学大学院総合文化研究科)

研究実施内容

現代／世界とは何か？——人文学の視点から

2015 年

班長 山室信一, 小関 隆

4 月25日 班員全員による自己紹介

研究期間 2015 年 4 月－2018 年 3 月 (1 年度目)

発表者：班員全員

研究実施状況

人文学における空間性と時間性：研究班の課題 発表者：山室信一

2015 年 4 月 25 日の旗揚げ研究会以降, 1916 年 1 月 18 日までにトータルで 11 回の研究会を開催した (2016 年 2 月までにさらに 2 回を予定している)。時には大会議室の利用が必要になるほどの数の出席者を得, 各回の報告・討論も充実した内容であった。2015 年度の実施にかかわって特筆すべき点には, 「環世界の人文科学」班とのジョイント開催 (2015 年 7 月 18 日) があったこと (2016 年度 2 月 15 日にも予定されている), また 11 月 28～29 日に国際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛争：ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」(関西学院大学) を共催したこと, がある。2016 年度にもジョイント開催を継続するとともに, 国際シンポジウム (「東アジアにおける歴史認識と歴史教育 (仮)」) の企画も進行中である。

5 月 8 日 ポスト第一次世界大戦の世紀：戦間期からポスト冷戦期まで

発表者：小関 隆

5 月22日 音楽史において第一次大戦は現代の起点だったか— 1970-90 年の連続性と非連続性を中心に 発表者：岡田暁生

6 月13日 現代世界史への視点：「長い二〇世紀」論とその周辺 発表者：木畑洋一

6 月29日 “Post-War Restitution and the Long Shadow of the Nazi Past in Austria” 「オーストリアにおける戦後補償問題とナチ支配の暗い影」

発表者：Oliver Rathkolb
 (ウィーン大学)

研究班員

7 月18日 レールに身体を横たえて：鉄道自殺の技術論 発表者：瀬戸口明久
 日本近世における複合生業— 近世の中国山地から現代を考える —

発表者：岩城卓二

所内：山室信一, 小関隆, 石井美保, 石川禎浩, 伊藤順二, イリナ・ホルカ, 岩城卓二, 王寺賢太, 大浦康介, 岡田暁生, 小川佐和子, 小野容照, 瀬戸口明久, 高木博志, 高階絵里加, 武上真理子, 田中雅一, 立木康介, 藤井俊之, 藤原辰史, 村上衛, 森川裕貴

10月10日 アフター・リベラリズム？—啓蒙の世紀からポスト 68 年へ

発表者：王寺賢太

学内：猪股祐介 (学際融合教育研究推進センター・研究員), 金沢周作 (文学研究科), 奈良岡聰智 (法学研究科), 永原陽子 (文学研究科), 西牟田祐二 (経済学研究科)

10月24日 「世界」の始まりと終わり：「作者とは何か」(フーコー) と「万物の終わり」(カント) から現代世界を考える

発表者：佐藤淳二

学外：池田嘉郎 (東京大学), 石垣勝 (東京大学), 石橋悠人 (新潟大学), 板橋拓己 (成蹊大学), 伊東信宏 (大阪大学), 井野瀬久美恵 (甲南大学), 今井宏昌 (日本学術振興会特

11月13日 統治される人びとの生政治—ポストコロニアル的大衆の時代としての現代

発表者：田辺明生

11月28日 国際カンファレンス「歴史と記憶の政

- 治とその紛争：ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」
- 11月29日 国際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛争：ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」
- 12月11日 「近代美術／史」とは何である／あったか？ 発表者：高階秀爾
- 2016 年
- 1 月15日 大戦間期イギリスにおける社会サービスの成立 —「福祉の複合体」の現代的再編と公共精神 — 発表者：高田 実
- 1 月30日 「中国の近代と日本の近代」の現在 発表者：小野寺史郎（埼玉大学）
- 2 月15日 「自然・神霊・人工物のアッサンブラージュ：「近代批判」としての呪術論を超えて」 発表者：石井美保

環世界の人文学——生きもの・なりわい・わざ

班長 大浦康介

研究期間 2015 年 4 月－2018 年 3 月（1 年度目）

研究実施状況

初年度である本年度は、班長（大浦）と副班長（藤原・石井）による本共同研究の趣旨説明のあと、ユクスキュル、木村敏、ヴァイツゼッカーらの基本文献の会読と、所内外の班員やゲストによる動物論、生業論、科学技術論等にかんする自由発表という形で研究会を催した。なお、このうち数回は「現代／世界」班との合同開催とした。

研究班員

所内：大浦康介、石井美保、藤原辰史、岩城卓二、王寺賢太、菊地暁、小関隆、田中雅一、立木康介、瀬戸口明久、藤井正人、イリナ・ホルカ、山室信一、藤井俊之、小川佐和子、田中祐理子、川村文重

学内：塩瀬隆之（総合博物館）、山越言（アフリカ地域研究資料センター）、百木漠（人間・環境学研究科博士課程）、開信介（人間・環境学研究科博士課程）、小柏裕俊（文学研究科博士課程）、松葉類（文学研

究科博士課程）、吉松覚（人間・環境学研究科博士課程）、石川登（東南アジア研究所）

学外：井黒忍（大谷大学）、板垣貴志（島根大学）、岩松正洋（関西学院大学）、大村敬一（大阪大学）、久保昭博（関西学院大学文学部）、佐塚志保（トロント大学）、篠原雅武（大阪大学）、三俣延子（同志社大学）、中川理（立教大学）、松村圭一郎（岡山大学）、金森修（東京大学）、近藤秀樹（大阪教育大学）、斉藤渉（東京大学）、橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館）、坂口正彦（大阪商業大学）、水野宏美（ミネソタ大学）、河田学（京都造形芸術大学）、西川貴子（同志社大学）、松岡隆浩（人文書院）、箱田徹（大阪市立大学）、北村直子（同志社大学）、松嶋健（広島大学）、山崎明日香（三重大学）

研究実施内容

2015 年

4 月20日 共同研究「環世界の人文学——生きもの・なりわい・わざ」の趣旨説明

発表者：大浦康介

発表者：石井美保

発表者：藤原辰史

5 月18日 ユクスキュル／クリサート『動物と人間の環世界への散歩——見えない世界の絵本』を読む 発表者：藤原辰史

6 月1日 木村敏『あいだ』他を読む

発表者：大浦康介

6 月15日 ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス』を読む 発表者：石井美保

7 月18日 （「現代／世界」班と共催）
日本近世における複合生業——近世の中国山地から現代社会を考える

発表者：岩城卓二

レールに身体を横たえて——鉄道自殺の技術論 発表者：瀬戸口明久

10月5日 モンテーニュ、デカルトの動物論とパスカル

発表者：山上浩嗣（大阪大学）

- 10月19日 アガンベン・ナウ——『開かれ』を中心に
発表者：岡田温司
(人間・環境学研究科)
- 10月24日 (「現代／世界」班と共催)
「世界」の始まりと終わり：「作者とは何か」(フーコー)と「万物の終わり」(カント)から現代世界を考える
発表者：佐藤淳二(北海道大学)
- 11月2日 『動物の境界』へ向けての長い助走——内世界・同伴・敵対・進化など
発表者：菅原和孝
(人間・環境学研究科(名誉教授))
- 12月7日 The Umwelten of Infrastructure: A Stroll along (and inside) Phnom Penh's Sewage Pipes
発表者：Casper Jensen
(人文研・外国人研究員)
- 2016 年
- 2月15日 自然・神霊・人工物のアッサンブラージュ：「近代批判」としての呪術論を超えて
発表者：石井美保
- 2月29日 アンビエント・コグニッション
発表者：佐々木正人(東京大学)

近代天皇制と社会

班長 高木博志

研究期間 2013 年 4 月－2016 年 3 月(3 年度目)

研究実施状況

「天皇」個人や「天皇像」、あるいは単なる政治過程でなく、天皇制を国家や社会とのかかわりで考える問題意識をもって、研究会を積み重ねた。10 回の研究会では、天皇制をめぐる、陵墓・由緒寺院・タイの王権・美術など多様な問題を扱うとともに、地域社会論や大学設立問題なども議論された。5 月 16 日には大山古墳周辺と堺市における巡見ののち、近代の文化財保護や百舌鳥古墳群をめぐる研究会をおこなった。さらに 9 月 18～19 日には、伊勢神宮や朝熊山・二見浦への巡見をおこなうとともに、古市の朝吉旅館で伊勢神宮をめぐる研究会を、地元の研究者の参加をえておこなった。12 月 19 日には、国際シンポ「日清戦争と東学農民戦争—その東アジア史的位罫」をもち、東学農民軍に対する

ジェノサイドの実態、東学農民戦争研究の到達点などが議論された。このシンポジウムを元に、『人文科学報』の特集号をくむ予定である。また次年度以降、共同研究報告書『近代天皇制と社会』の刊行にむけて動き始めた。

研究班員

所内：高木博志、水野直樹、岩城卓二、高階絵里加、瀬戸口明久、藤原辰史、池田さなえ
学内：谷川穰(文学研究科)、駒込武(教育学研究科)
学外：福家崇洋(富山大学)、日向伸介(静岡大学)、田中智子(同志社大学)、飯塚一幸(大阪大学)、市川秀之(滋賀県立大学)、上田長生(金沢大学)、遠藤俊六(茨木市)、小川原幸宏(同志社大学)、長志珠絵(神戸大学)、尾谷雅彦(河内長野市)、小股憲明(大阪芸術短期大学)、鍛冶宏介(京都学園大学)、河西秀哉(神戸女学院大学)、小林丈広(同志社大学)、佐竹朋子(柳沢文庫)、高久嶺之介(京都橘大学)、羽賀祥二(名古屋大学)、幡鎌一弘(天理大学)、原田敬一(仏教大学)、ジョン・ブリー(国際日本文化研究センター)、原戸喜代里(京都府)、赤澤史朗(立命館大学)、本康宏史(金沢星稜大学)、山本真紗子(立命館大学)、廣木尚(早稲田大学)、平山昇(九州産業大学)、黒岩康博(天理大学)、昆野伸幸(神戸大学)、松山 恵(明治大学)

研究実施内容

2015 年

- 1 月 24 日 書評：岸泰子『近世の禁裏と都市空間』(思文閣出版、2014 年)
発表者：鍛冶宏介(京都学園大学)
- 3 月 14 日 由緒寺院と宮家の距離—年忌法要・陵墓祭をめぐる—
発表者：青谷美羽(同志社大)
近代タイにおける王国像の形成—第一次世界大戦を契機とした考古学行政の成立過程に着目して
発表者：日向伸介(静岡大学)

- 4月4日 靖國神社への戦没者の合祀基準の変遷
発表者：赤澤史朗（立命館大学）
広沢池畔，佐野藤右衛門校園の巡見
- 5月16日 大山古墳の巡見と近代陵墓問題の研究会
堺灯台と大浜公園（幕末の堺南台場の跡，石垣，『擁護壘』など），そして大山古墳とその陪塚群の巡見（案内，尾谷雅彦）
取り消された陵墓 黒姫山古墳
発表者：尾谷雅彦（河内長野市）
百舌鳥古墳群に即して尾谷雅彦『近代古墳保存行政の研究』にコメント
発表者：高木博志（河内長野市）
- 6月13日 近代神道の展開—丸尾博通・二荒芳徳を中心に
発表者：昆野伸幸（神戸大学）
空襲研究から考える—防空・空襲・空爆のあいだ（序論）
発表者：長志珠絵（神戸大学）
- 7月25日 神国大博覧会開催計画とその行方—昭和初期石倉市政の松江観光都市化戦略
発表者：能川泰治（金沢大学）
1920～40年代における美術の社会普及
発表者：太田智己（東京芸術大学）
- 9月18日 伊勢神宮・朝熊山・二見浦の巡見と伊勢神宮をめぐる研究会
伊勢外宮・倉田山・内宮・おかげ横丁・古市旧遊廊・麻吉旅館の巡見（案内 ジョン・グリーン）
ジョン・グリーン『神都物語：伊勢神宮の近現代史』（吉川弘文館，2015年）をめぐる研究会
発表者：音羽 悟・櫻井治男・田浦雅徳・谷口裕信ほか
神宮司庁・皇學館大学ほか
- 9月19日 内宮早朝参拝・朝熊山・二見浦・寶日館・御塩敷などの巡見（案内 音羽悟）
- 10月31日 『朝鮮新報』主筆青山好恵と1890年代の朝鮮情報流通
発表者：中川未来（愛媛大学）
敗戦後の三笠宮—いわゆる「史学会発言」をめぐる—
発表者：河西秀哉（神戸女学院大学）
- 11月28日 大正・昭和戦前期の地域社会の変容—滋賀県湖東地方を対象に
発表者：高久嶺之介（京都橘大学）
「大学」をつくる—「帝国大学」創設期の同志社「大学」設立運動
発表者：田中智子（同志社大学）
- 12月19日 国際シンポジウム「日清戦争と東学農民戦争—その東アジア史的位置」
東学農民戦争の研究状況と課題—東学農民戦争120周年を過ぎて
発表者：朴 孟洙（パクメンス）
（圓光大学校）
日清戦争と明治維新の東アジア史的位置を検討するために—朝鮮抗日農民戦争の現地調査から
発表者：井上勝生（北海道大学）
発表者：原田敬一（佛教大学）
- 2016年
- 1月23日 近世後期における水戸藩の儒教儀礼—『喪祭儀略』と『喪祭式』を中心に
発表者：田 世民（淡江大学）
- 1月30日 神武・南朝・維新の三大顕彰と近代日本
発表者：高木博志（京都大学）
資料報告 京郊日蓮宗僧侶の神武・南朝・維新顕彰活動—高山彦九郎銅像・八紘一字石塔の建立と映画製作—
発表者：玉城玲子
（向日市文化資料館）
- 3月19日 檀原神宮と畝傍檀原教会
発表者：幡鎌一弘（天理大学）
皇居の防空
発表者：長志珠絵（神戸大学）
- 日中戦争・アジア太平洋戦争期朝鮮社会の諸相
班長 水野直樹
- 研究期間 2012年4月—2016年3月（4年度目）
研究実施状況

2015年度は7回の研究会、1回の公開セミナーを開催した。研究発表、資料紹介、書評など、計18の発表を行ない、質疑応答、情報交換を通じて、問題意識、視点、資料解釈などに関して活発に討論した。特に公開セミナーでは、韓国から中堅研究者2名を招いて、戦時期朝鮮社会の状況に関する新たな研究状況や新たな資料について紹介してもらい、日韓の歴史研究者の交流と相互討論を図った。これらの研究発表により、戦時期の朝鮮社会について、とくに新資料の発掘と分析が大きく進展した。

研究班員

所内：水野直樹、小野容照

学内：谷川竜一（地域研究統合情報センター）、川壽陽（文学研究科）

学外：チョン・ジョンファ（韓国映像資料院韓国映画史研究所、学術振興会外国人特別研究員）、姜明淑（韓国・培材大学校）、尹寧實（日韓文化交流基金訪日フェロー）、庵谿由香（立命館大学）、宮本正明（立教大学）、松田利彦（国際日本文化研究センター）、河かおる（滋賀県立大学）、山口公一（追手門大学）、本間千景（佛教大学）、長沢一恵（奈良大学）、藤永杜（大阪産業大学）、吉川絢子（同志社大学）、鈴木文子（佛教大学）、李昇燁（佛教大学）、李正熙（仁川大学校）、金慶南（法政大学）、洪宗郁（同志社大学）

研究実施内容

2015年

5月9日 朝鮮における思想犯予防拘禁制度とその実態 発表者：水野直樹
今年度研究会の予定
発表者：班員全員

6月13日 公開セミナー「映画『授業料』（1940年）と戦時期朝鮮の教育状況」
朝鮮映画『授業料』発掘と映画史的価値 発表者：チョン・ジョンファ（韓国映像資料院）
戦時期朝鮮の教育状況
発表者：カン・ミョンスク（培材大学校）

7月11日 植民都市開発と「伝統都市」全州の社会経済構造の変容

発表者：金 慶南（法政大学）
（書評）ブランドン・パーマー（塩谷紘訳）『検証 日本統治下朝鮮の戦時動員—1937～1945』（草思社、2014年）

発表者：イ・スンヨブ（佛教大学）
10月10日 ライフストーリーにみる植民地という日常—在朝日本人と朝鮮人の「戦時下」の生活世界をめぐる語りの比較を手掛かりに

発表者：鈴木文子（佛教大学）
1920、30年代の赴戦江水力発電開発の空間的特性とその開発手法・人材の系譜に関して

発表者：谷川竜一（金沢大学）
11月14日 九州帝国大学医学部民族衛生学・植民衛生学講座出身者の朝鮮研究—水島治夫の学統 発表者：松田利彦（国際日本文化研究センター）
崔南善の満州紀行文「松漠燕雲録」（1937年）研究

発表者：ユン・ヨンシル（外国人共同研究者）
12月5日 （史料紹介）『昭和17年度府尹郡守会議録』

発表者：山口公一（追手門大学）
都市対抗野球大会と植民地朝鮮

発表者：小野容照
1930年代農村振興運動と社会教育—嶺南明徳会編『簡易農村教本』を中心に（2） 発表者：本間千景（佛教大学・非常勤）

2016年

1月9日 （史料紹介）朝鮮軍隷下連隊資料—オーストラリア戦争博物館所蔵捕虜訪問記録を中心に

発表者：庵谿由香（立命館大学）
（史料紹介）日本敗戦直後における朝鮮総督・政務総監経験者の回顧—小磯国昭・阿部信行・遠藤柳作

発表者：宮本正明（立教大学）
戦時期朝鮮における思想犯統制と大和塾

発表者：洪 宗郁（ソウル大学校）
2月14日（史料紹介）昭和17年度府尹郡守会議
の各道報告書に見る婦人啓蒙運動

発表者：河かおる（滋賀県立大学）
戦時期朝鮮における朝鮮総督府の社会
政策 発表者：長沢一恵（奈良大学）

「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」準備研究

班長 藤井正人

研究期間 2014年4月－2016年3月（2年度目）

研究実施状況

昨年度は前の共同研究の積み残しに活動の大半を費やしたために、本年度（第2年度）が2年間の本共同研究の実質的な研究期間となっている。来年度、開始予定の「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」の本研究への準備として、班員の分野を広げ、ヒンドゥー教（タントラ）、ジャイナ教、仏教、インド・イスラム史、南アジア人類学の研究者を新たに班員に加えた。本年度の初回に、研究のねらいについて確認するとともに、班員がそれぞれの専門分野から「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」準備研究および本研究にどのようにアプローチするかについて検討した。以降の研究会では、初期のヴェーダ文献に現れる秘儀的な傾向、南インド・ケララ州のバラモン社会におけるヴェーダとヒンドゥー教（タントラ）の現状分析、などの報告を行った。なお、3月に外国から研究者を招いて、「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」本研究へのキックオフのための国際シンポジウムを開催した。

研究班員

所内：藤井正人、井狩彌介、田中雅一、石井美保、
天野恭子（学振 RPD）

学内：赤松明彦（文学研究科）、横地優子（文学
研究科）、田辺明生（アジア・アフリカ地
域研究研究科）、小倉智史（文学研究科・
学振 PD）、高橋健二（文学研究科・博士
後期課程）

学外：池田宣幸（無所属）、永ノ尾信悟（東京大

学名誉教授）、大島智靖（東京大学）、梶
原三恵子（東京大学）、小林正人（東京大
学）、手嶋英貴（京都文教大学）、堂山英
次郎（大阪大学）、西村直子（東北大学）、
山田智輝（大阪大学）、吉水清孝（東北大
学）、伊澤敦子（国際仏教学大学院大学・
図書館員）、井田克征（金沢大学・客員研
究員）、尾園絢一（東北大学・専門研究
員）、河崎豊（大谷大学・特別研究員）、
名和隆乾（京都光華女子大学・嘱託研究
員）、沼田一郎（東洋大学）

研究実施内容

2015 年

5月22日 「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」
準備研究〈研究のねらい〉

発表者：藤井正人

6月19日 Maitrayani Samhita に 見 ら れ る
aranyaka 志向について —— sattrā へ
の言及箇所を手がかりに ——

発表者：天野恭子

10月23日 ケーララ州におけるヴェーダとタント
ラとの関係

発表者：手嶋英貴（京都文教大学）

11月20日 南インドにおけるヴェーダの現在

発表者：藤井正人

ケーララ州の Sodasa-kriya とナン
ブーディリ社会

発表者：梶原三恵子（東京大学）

2016 年

1月22日 udigithavidya 再考（のための序論）

発表者：吉水清孝（東北大学）

3月11日 International Symposium “Brahman-
ism and Hinduism: Change and Conti-
nuity in South Asian Society and
Religion —— Prolegomena——”

Passage from Brahmanism to Hinduism
and the Grhyaparisistas: Reflections
on the grhasanti

発表者：Asko Parpola

(University of Helsinki)

Reflections of the “Preclassical”

Rituals in the Maitrayani Samhita

発表者: Kyoko Amano
(Kyoto University (JSPS))

Panel: The Brahman Society in
Modern Kerala

発表者: Masato Fujii,
Hideki Teshima,
Mieko Kajihara

The Veda and the Namputiri Society

発表者: Masato Fujii
(Kyoto University)

The Tantris and Temple Rituals

発表者: Hideki Teshima
(Kyoto Bunkyo University)

The Sodasa-kriyas and today's
Nambputiri society

発表者: Mieko Kajihara
(University of Tokyo)

「ヴァードゥーラ・シュラウターストラ」研究

班長 井狩彌介, 藤井正人

研究期間 2015 年 4 月-2018 年 3 月 (1 年度目)

研究実施状況

ヴァードゥーラ・シュラウターストラの第 8 章 (アグニチャヤナ祭) を研究対象にして, 井狩 (班長) が校訂テキストと訳注を作成し, 研究会で報告するとともに, 参加者全員によって検討を行った。初回のヴァードゥーラ学派とその現存文献に関する概説を受けて, 第 2 回よりテキストの会読を中心に, 補説的な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度, 検討したテキストの主題は, 祭式材料の準備, ティローダー女神とブラフマンのための献供, ウカー土器のための粘土収集に関する諸祭事などである。補説的な研究としては, 豊穰の観念に関わるブリーシャという難語について報告を行った。

研究班員

所内: 井狩彌介, 藤井正人, 天野恭子 (RPD)

学内: 横地優子 (文学研究科), 高橋健二 (文学研究科・博士後期課程)

学外: 伊澤敦子 (国際仏教学大学院大学・図書館員), 永ノ尾信悟 (東京大学・名誉教授),

大島智靖 (東京大学・研究員), 尾園絢一 (東北大学・専門研究員), 梶原三恵子 (東京大学), 小林正人 (東京大学), 柴崎麻穂 (中村元東方研究所・専任研究員), 手嶋英貴 (京都文教大学), 堂山英次郎 (大阪大学), 名和隆乾 (京都光華女子大学・嘱託研究員), 西村直子 (東北大学・非常勤講師), 八木綾子 (京都大学文学研究科・非常勤講師), 山田智輝 (大阪大学・研究員)

研究実施内容

2015 年

4 月 24 日 ヴァードゥーラ学派とその現存文献の概観 発表者: 井狩彌介

5 月 22 日 Vādhūla Śrautasūtra 8. 1. 1-23

発表者: 井狩彌介

6 月 19 日 Vādhūla Śrautasūtra 8. 1. 13-34

発表者: 井狩彌介

10 月 23 日 Vādhūla Śrautasūtra 8. 2. 1-8. 3. 20

発表者: 井狩彌介

11 月 20 日 Excursus on "purisa": BaudhSS を中心とする Srautasutra の用例から

発表者: 井狩彌介

12 月 18 日 Vādhūla Śrautasūtra 8. 3. 9-8. 4. 3

発表者: 井狩彌介

2016 年

1 月 22 日 Vādhūla Śrautasūtra 8. 4. 4-8. 5. 8

発表者: 井狩彌介

ウメサオ・スタディーズの射程 班長 田中雅一

研究期間 2015 年 4 月-2018 年 3 月 (1 年度目)

研究実施状況

本研究会は以下の三つの活動からなる。2 と 3 は「みやこの学術資源プロジェクト」と連携して行っている。1) 研究発表: 梅棹の関心や業績は多岐にわたる。これらを整理し, 主要なテキスト読み, それに基づいて研究会を行う。2) 紙媒体資料のデジタル化: 具体的には, 人文科学研究所に残されている社会人類学講座の梅棹関係の書類を項目ごとに分類し, デジタル化し, 整理している。デジタル化された文書のリストを作成, 詳細な説明をつけた資料も作成中である (今年度終了予定)。3) テープ資

料のデジタル化：京大在籍中の梅棹忠夫の活動は多岐にわたるが、そのひとつが近衛ロンドという研究会・自主講義であった。当時の会合を記録していたオープンリールテープを、昨年も引き続き外注してデジタル化している。

研究班員

所内：石井美保，菊地暁，小池郁子，Bill MUC，Shen Tiantian，茶園敏美

学内：高嶋航（文学研究科），田辺明生（アジア・アフリカ地域研究科），武田龍樹（文学研究科）

学外：飯田卓（国立民族学博物館），平井京之介（国立民族学博物館），河西瑛里子（国立民族学博物館），飯塚真弓（高崎経済大学）

研究実施内容

2015 年

4 月 20 日 作業日程についての打ち合わせ

発表者：田中雅一

2016 年

2 月 8 日 研究会「梅棹忠夫・主婦/家事論争を再考する」

梅棹忠夫と主婦論争

発表者：妙木 忍

（北海道大学）

コメンテーター：上野千鶴子

（立命館大学）

司会：田中雅一

3 月 6 日 国際ワークショップ「梅棹忠夫・博物館論を再考する」

Denmark's Afghan War at the National Arsenal Museum at Copenhagen

発表者：Mads Daugbjerg

（Aarhus University）

Exhibiting Peace

発表者：兼清順子

（立命館大学国際平和ミュージアム）

On the Representations of Hiroshima Survivors

発表者：直野章子

（九州大学）

War Dead at Museums in Japan

発表者：西村 明（東京大学）

司会：田中雅一

アジアの通商ネットワークと社会秩序

班長 籠谷直人

研究期間 2012 年 4 月－2016 年 3 月（4 年度目）

研究実施状況

本年度は 3 年間行われてきた B 班を C 班として 1 年延長するかたちとなり，実質的に 4 年目の最終年度にあたる。そのため本年度は，成果報告書作成のための各自の論文執筆期間とした。研究成果は成果報告書として出版予定でありが，一部は人文学報に投稿予定である。

研究班員

所内：岩井茂樹，村上衛，山崎岳

学外：陳来幸（兵庫県立大学），城山智子（東京大学），弘末雅士（立教大学），植村泰史（広島大学），松田浩子（総合地球環境学研究所），泉川晋（広島大学），島田竜登（東京大学）

研究実施内容

2016 年

3 月 6 日 成果報告書作成にむけて

「近代植民地都市バタヴィアの誕生」

発表者：植村泰夫（広島大学）

「蘭領インドにおける技術者教育と工学」

発表者：松田浩子

（総合地球環境学研究所）

「オランダ東インド会社の貿易とバタヴィア — 18 世紀前半バタヴィアのオランダ本国貿易とアジア城内貿易」

発表者：島田竜登（東京大学）

「ジャワにおける台湾包種茶の普及と商人のネットワーク」

発表者：工藤裕子（東京大学）

「1930 年代バタヴィアにおける日本製綿製品の流通と華僑華人」

発表者：泉川 普（広島大学）

「バタヴィア建設以前のジャワと中国 — 明代華人の活動を中心に —」

発表者：山崎 岳

「バタヴィア華人と中国 — 17-19 世

紀バタヴィア公館公安簿から見た一考察」 発表者：城山智子（東京大学）
『『唐人』の現地適応と戦略（スケルトン）』 発表者：岩井茂樹
『20世紀初頭における客家系華僑の台頭アジア交易ネットワーク 梅県南口鎮潘家を手掛かりに』
発表者：陳 来幸（兵庫県立大学）
『19世紀後半における「英蘭型」国際経済秩序の形成とイースタン・バングの東南アジア展開』 発表者：川村朋貴

東方学研究所

東アジア近世の地域をつなぐ関係と媒介者

班長 岩井茂樹

研究期間 2014年4月－2017年3月（2年度目）

研究実施状況

2015年4月から2016年1月の間、課題についての研究報告をおこなう研究会を計12回開催した。このほか、研究班のサブグループによる『道咸宦海見聞録』の会読をおこなった（計13回）。これは19世紀に翰林官および地方官僚を歴任した張集馨（1800年～1879年）が遺した自編年譜および日記からなる史料である。会読にさいしては電子テキストを作成し、その校訂作業を併せておこなっている。

研究班員

所内：矢木毅，宮宅潔，村上衛，山崎岳，高井たかね，岩井茂樹，庄声，城地孝（研究員），望月直人（研究員），小林隆道

学内：岩本真利絵（大学院文学研究科 DC），項巧鋒（大学院文学研究科 DC），宋宇航（大学院文学研究科 DC），凌鵬（大学院文学研究科 DC）

学外：藤本幸夫（富山大学），金文京（鶴見大学），植松正（京都女子大学），小野達哉（大阪大学），加藤雄三（三重大学），伍躍（大阪経済法科大），中島楽章（九州大学），水越知（関西学院大学），承志（追手門学院大学），石野一晴（駒澤大学），市丸智子（九州大学），藤本猛（清泉女子大学），毛利英

介（関西大学），木村加奈子（ソウル大学校），辻原明穂（京都女子大学），李怡文（エール大学）

研究実施内容

2015年

4月3日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：城地 孝
（非常勤研究員・非常勤）

発表者：望月直人
（現代中国研究センター産学連携
研究員・非常勤）

4月14日 築城與拆城：近世中國通商口岸城市成長擴張的模式與特徵

発表者：劉 石吉
（台湾中央研究院近代史
研究所・非常勤）

4月20日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：宋 宇航（文学研究科 DC）

発表者：凌 鵬（文学研究科 DC）

5月11日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：城地 孝
（非常勤研究員・非常勤）

発表者：望月直人
（現代中国研究センター産学連携
研究員・非常勤・非常勤）

5月12日 日宋貿易を支える信用システム

発表者：李 怡文
（イエール大学大学院 DC）

5月25日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者 凌 鵬（文学研究科 DC）

発表者：宋 宇航（文学研究科 DC）

5月26日 清初の推官及びその廃止 ― 重ねて地方行政職能の再調整を論じる

発表者：項 巧鋒
（文学研究科研修員）

6月8日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：城地 孝
（非常勤研究員）

発表者：望月直人
（現代中国研究センター
産学連携研究員）

- | | | |
|--------|---|--|
| 6月22日 | 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：宋 宇航（文学研究科 DC）
発表者：凌 鵬（文学研究科 DC） | 佃関係の一側面について
発表者：凌 鵬（文学研究科 DC） |
| 6月23日 | 船主王直功罪考（後編）：胡宗憲の日本招撫計画
発表者：山崎岳 | 12月14日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 孝（非常勤研究員） |
| 6月30日 | 第二次日本遠征後の元・麗・日関係外交文書について
発表者：山崎 岳 | 発表者：望月直人（現代中国研究センター産学連携研究員） |
| 7月6日 | 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 考（非常勤研究員）
発表者：望月直人（現代中国センター産学連携研究員） | 2016 年
1月12日 保商局の越境：清末雲南・ビルマ辺境における社会変動と国際関係に関する一考察
発表者：望月直人（現代中国研究センター産学連携研究員） |
| 9月20日 | 日本の君主號問題からみた天下の秩序
発表者：岩井茂樹 | 1月26日 清初の六部衙門における漢人官僚の存在形態：雍正初年の科道官奏摺を手掛かりに
発表者：小野達哉（文学研究科教務補佐員） |
| 9月28日 | 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：宋 宇航（文学研究科 DC）
発表者：凌 鵬（文学研究科 DC） | 2月1日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 孝（同志社大学・非常勤）
発表者：望月直人（現代中国研究センター産学連携研究員） |
| 10月13日 | 嘉靖六年年末の内殿儀礼改定：中国明代における専制君主と政策決定の正当性
発表者：岩本真利絵（文学研究科 DC） | 2月9日 共同体理論の意義と中国農村社会研究
発表者：凌 鵬（京都大学大学院文学研究科博士後期課程） |
| 10月26日 | 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 考（非常勤研究員）
発表者：望月直人（現代中国研究センター産学連携研究員） | 2月15日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：宋 宇航（京都大学大学院文学研究科修士課程）
発表者：小野達哉（文学研究科教務補佐員） |
| 11月9日 | 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：岩本真利絵（文学研究科 DC） | 3月8日 自由の民「唐人」の適応と戦略
発表者：岩井茂樹（人文科学研究所） |
| 11月12日 | 一七五一年、南部藩漂流商船をめぐる清日間の往復咨文とその和解
発表者：岩井茂樹 | 3月22日 官は官を庇うか——清代後期における地方官の「上控」をめぐる連絡・交渉——
発表者：海 丹（京都大学大学院法学研究科博士後期課程） |
| 11月24日 | 明代正統末期・景泰期・天順期における内閣の性格
発表者：宋 宇航（文学研究科 DC） | |
| 11月30日 | 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：宋 宇航（文学研究科 DC）
発表者：凌 鵬（文学研究科 DC） | |
| 12月8日 | 押佃、租穀と商品経済：清代巴県農租 | |

3月28日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：城地 孝
(同志社大学・非常勤)

発表者：望月直人
(現代中国研究センター
産学連携研究員)

4月13日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：岩本真利絵
(京都大学大学院文学研究科
博士後期課程)

発表者：宋 宇航
(京都大学大学院文学研究科
修士課程)

4月27日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』

発表者：張 子康
(京都大学大学院文学研究科修士課程)

発表者：後藤 陸
(京都大学大学院文学研究科修士課程)

5月10日 明朝による無祀鬼神祭祀政策——祭
属制度と蔣山法会

発表者：濱野亮介 (大谷大学)

近現代中国における社会経済制度の再編

班長 村上 衛

研究期間 2012年4月－2016年3月(4年度目)

研究実施状況

本年度は3年間行われてきたB班をC班として1年延長するかたちとなり、実質的に4年目の最終年度にあたる。そのため、前半は研究の総括を意識した報告を中心に、後半は若手の今後の研究を見据えた報告を中心として合計15回の研究会を行った。毎回の参加者数は二十数名である。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していただいている。特に本年度は日本経済史を専門とするコメンテーターを招聘することにより、中国経済のあり方および中国経済史研究の特性についての理解を深めることができた。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて実質的に3時間を超過すること

も多かった。なお、本研究班の報告書は現在編集を進めており、来年度前半に刊行予定である。

研究班員

所内：村上衛、石川禎浩、岩井茂樹、籠谷直人、武上真理子、山崎岳、柴田陽一、城地孝、望月直人、森岡優紀、森川裕貫

学内：貴志俊彦(地域研究統合情報センター)、小島泰雄(人間・環境学研究科)、高嶋航(文学研究科)、江田憲治(人間・環境学研究科)、秋田朝美(経済学研究科)、郭まいか(文学研究科)、久保田裕次(公共政策大学院)、項巧鋒(文学研究科)、宋玉梅(人間・環境学研究科)、西山喬貴(文学研究科)、凌鵬(文学研究科)、若松大祐(学際融合教育研究推進センター)

学外：石川亮太(立命館大学)、上田貴子(近畿大学)、烏蘭其其格(兵庫県立大学)、大坪慶之(三重大学)、岡本隆司(京都府立大学)、荻恵里子(京都府立大学)、小野寺史郎(埼玉大学)、片山剛(大阪大学)、加藤雄三(奈良大学)、金丸裕一(立命館大学)、蒲豊彦(京都橘大学)、川井悟(プール女学院大学)、韓燕麗(関西学院大)、木越義則(大阪産業大学)、楠原俊代(同志社大学)、奚伶(神戸大学)、兒玉州平(神戸大学)、島田美和(慶應義塾大学)、園田節子(兵庫県立大学)、瀧田豪(京都産業大学)、田口宏二郎(大阪大学)、田中剛(京都精華大学)、陳思聰(大阪大学)、陳来幸(兵庫県立大学)、辻高広(阪南大学)、田由甲(大阪大学)、富澤芳亜(島根大学)、中島勝住(京都精華大学)、根無新太郎(京都府立大学)、狭間直樹(京都大学)、浜田直也(神戸女子大学)、細見和弘(立命館大学)、堀地明(北九州市立大学)、松村光庸(無所属)、丸田孝志(広島大学)、三田剛史(明治大学)、宮内肇(立命館大学)、村尾進(天理大学)、森時彦(帝京大学)、山本一(大阪大学)、楊韜(佛教大学)、吉田建一郎(大阪経済大学)、吉田豊子(京都産業大学)、劉雯

人 文 学 報

(兵庫県立大学), 易星星 (兵庫県立大学), 刁成林 (立命館大学)		コメンテーター：沢井 実 (大阪大学)	
研究実施内容		11月20日	日本統治期における台湾人の移動 — 1895 年から 1937 年まで中国大陆に留 学する台湾人を中心に
2015 年			
4 月24日	開港期朝鮮の国際貿易と華商の活動 — 論点の整理 発表者：石川亮太 (立命館大学) コメンテーター：岡本隆司 (京都府立大学)		発表者：巫 靚 (人間・環境学研究科) コメンテーター：上田貴子 (近畿大学)
5 月15日	「東亜病夫」と近現代中国 発表者：高嶋 航 (文学研究科) コメンテーター：石川禎浩	12月11日	満洲開拓基督教村の一考察 発表者：浜田直也 コメンテーター：細谷 亨 (立命館大学)
5 月29日	照市納租 — 清代巴県地方の田租「減 免」慣習について 発表者：凌 鵬 (文学研究科) コメンテーター：岩井茂樹	2016 年	
6 月14日	新中国建国前後の印刷・造紙業界につ いて — 初期の北京新華印刷廠 (1949～ 1952 年) を中心に 発表者：楊 韜 (佛教大学) コメンテーター：村井寛志 (神奈川大学)	1 月15日	上海租界二重国籍中国人問題 — 会審 公廨と上海総商会を中心に 発表者：郭まいか (文学研究科) コメンテーター：中山大將 (地域研究統合情報センター)
6 月26日	汎太平洋学会会議にみる科学の制度化 と国際化 — 中国の加入問題を中心 に 発表者：武上真理子 コメンテーター：塚原東吾 (神戸大学)	1 月29日	個人の病気か民族の病気か — 近代 中国における肺結核病の医療社会史 発表者：瞿 艶丹 (文学研究科) コメンテーター：市川智生 (長崎大学)
10月 9 日	台湾の国連脱退と沖縄 — 台湾間海底 ケーブル布設問題 発表者：貴志俊彦 (地域研究統合情報センター) コメンテーター：清水 麗 (東京大学)	2 月12日	明代後期閩南における開港と海寇 発表者：山崎 岳 (人文科学研究所) コメンテーター：岡本隆司 (京都府立大学)
10月23日	香港貿易の数量化と可視化 — 清末英 字新聞と海関統計の総合的利用 — 発表者：木越義則 (名古屋大学) コメンテーター：宮田敏之 (東京外国語大学)	2 月26日	1920 年代広東の族刊雑誌と宗族 発表者：宮内 肇 (立命館大学) コメンテーター：陳 来幸 (兵庫県立大学)
11月13日	近代中国における紡織技術者養成につ いて 発表者：富澤芳亜 (島根大学)	人文情報学の基礎研究 班長 ウィッテルン, クリスティアン 研究期間 2013 年 4 月—2016 年 3 月 (3 年度目) 研究実施状況	

本共同研究班（2013.4-2016.3）は文献研究が行う人文科学の諸分野、特に東洋学の研究、つまり古典の校正、解説、注釈、翻訳等を支援する方法や規格を提唱して、さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指している。そのツールの具体的な機能等は研究進行と共に明らかになるだろうが、現時点では文字としてのテキストと画像テキストの連携、複数のバージョンの扱い、テキスト批判、引用文や逸文の検出、語彙や事例の検討、テキストマイニング、テーマ・ジャンルなどでの絞り検索などが考えられる。研究者の需要を再検討して、テキスト研究に必要な道具で21世紀の人文科学研究の基盤を強化することは本研究の最大の目的だ。今年度は漢籍リポジトリの公開に向けて準備を進めてきた、秋から約9000種の漢籍が実験的に公開して、ウェブ（<http://www.kanripo.org>）とマンドク（<http://www.mandoku.org>）で使用可能になった。2016年3月19日に一般公開済み。

研究班員

所内：安岡孝一、古勝隆一、永田知之、土口史記、白須裕之、ビルマク
 学内：宮崎泉（文学研究科）
 学外：坂内栄夫（岐阜大学）、ミュラー アルバート チャールズ（東京大学）、下田正弘（東京大学）、二階堂善弘（関西大学）、後藤真（人間文化研究機構）、山崎直樹（関西大学）

研究実施内容

2015年

- 1月13日 第二十四回 マンドク インストーラー／パッケージ
- 1月27日 第二十五回 漢籍目録について
- 2月10日 第二十六回 Windows上のマンドクに新しい試みとしてgnupackを使って実現して見る
- 4月28日 第二十七回 現状報告と今年度の計画
- 5月12日 第二十八回 新しいサーバーとデータの構築
- 5月26日 第二十九回 構築中の漢リポサーバに追加された機能について
- 6月23日 第三十回 Windows用のzipパッ

ケージを更新について

- 7月14日 第三十一回 DH2015の参加報告
 - 10月13日 第三十二回 ウェブサイトの新たに構築したGitHubとの連携
 - 10月27日 第三十三回 www.kanripo.orgの新しい機能紹介
 - 11月24日 第三十四回 Windows用のzipパッケージの更新について
 - 12月8日 第三十五回 報告書の検討（1）
- 2016年
- 1月12日 第三十六回 報告書第二章「漢籍リポジトリの情報源と編成」の検討
 - 1月26日 第三十七回 報告書第三章「漢籍リポジトリの使い方」の検討
 - 2月9日 第三十八回 報告書第四章「漢籍リポジトリの使用例」の検討

『文史通義』研究

班長 古勝隆一

研究期間 2015年4月－2018年3月（1年度目）

研究実施状況

本年度は4月21日に最初の研究班を開催して以来、おおむね一ヶ月に2回のペースで『文史通義』の会読を実施することができた。あらかじめ担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では効率的に議論することができたものと考えている。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、すでに2015年12月1日の研究班において、巻一を訳し終えた。当初予想していた以上に多様な論点が各班員から提出されたため、必ずしも意見の一致しないところも少なからずのこったが、そういった部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。各回の終了後には、訳注稿の改稿をあらためて提出してもらっており、すでに巻一については原稿を用意しており、現在、『東洋学報』に投稿するため、原稿整理の段階にある。

研究班員

所内：井波陵一、岩井茂樹、永田知之、藤井律之、土口史記、小林隆道、白須裕之

<p>学内：宇佐美文理（大学院文学研究科），道坂昭廣（大学院人間環境学研究科），古勝亮（文学部），趙ユニル（大学院文学研究科），田訪（大学院文学研究科），中原佑真（大学院文学研究科），福谷彬（大学院文学研究科），廖明飛（大学院文学研究科）</p>	<p>10月20日 『文史通義』 卷一「経解上」 訳注 『文史通義』 卷一「経解上」 訳注 発表者：渡辺 大（文教大学） 11月17日 『文史通義』 卷一「経解中」 訳注 『文史通義』 卷一「経解中」 訳注 発表者：土口史記</p>
<p>学外：内山直樹（千葉大学），竹元規人（福岡教育大学），渡邊大（文教大学），重田みち（早稲田大学），山口智弘（千葉大学），白石将人（北京大学）</p>	<p>12月1日 『文史通義』 卷一「経解下」 訳注 『文史通義』 卷一「経解下」 訳注 発表者：廖 明飛 （京都大学大学院文学研究科）</p>
<p>研究実施内容 2015 年</p>	<p>12月1日 『文史通義』 卷二「原道上」 訳注（1） 『文史通義』 卷二「原道上」 訳注（1）</p>
<p>4月21日 『文史通義』 訳注に関する趣旨説明 発表者：古勝隆一</p>	<p>発表者：岩井茂樹 2016 年</p>
<p>5月19日 『文史通義』 卷一「易教上」 訳注 『文史通義』 卷一「易教上」 訳注 発表者：古勝隆一</p>	<p>1月19日 『文史通義』 卷二「原道上」 訳注（2） 『文史通義』 卷二「原道上」 訳注（2） 発表者：永田知之</p>
<p>6月2日 『文史通義』 卷一「易教中」 訳注 『文史通義』 卷一「易教中」 訳注 発表者：古勝隆一</p>	<p>2月2日 『文史通義』 卷二「原道中」 訳注 『文史通義』 卷二「原道中」 訳注 発表者：白石将人（北京大学中文系）</p>
<p>6月16日 『文史通義』 卷一「易教下」 訳注 『文史通義』 卷一「易教下」 訳注 発表者：古勝隆一</p>	<p>2月16日 『文史通義』 卷二「原道下（1）」 訳注 『文史通義』 卷二「原道下（1）」 訳注 発表者：山口智弘</p>
<p>7月21日 『文史通義』 卷一「書教上」 訳注 『文史通義』 卷一「書教上」 訳注 発表者：福谷 彬 （京都大学大学院文学研究科）</p>	<p>（千葉大学文学部・非常勤） 東アジア古典文献コーパスの応用研究 班長 安岡孝一</p>
<p>7月21日 『文史通義』 卷一「書教中」 訳注 『文史通義』 卷一「書教中」 訳注 発表者：中原佑真 （京都大学大学院文学研究科）</p>	<p>研究期間 2013 年 4 月－2016 年 3 月（3 年度目） 研究実施状況 「十八史略」をもとにした漢文コーパスを作成し，さらにこの漢文コーパスを用いた形態素解析の結果を，人名情報の抽出という側面から検討した。人名情報のうち姓氏については，形態素辞書への大量追加という手法が有効だとの感触を得た。一方，名については，他の用例とのバッティングが「ストーリー」全体で回避されていることが判明し，「ストーリー」分析をおこなう必要性があるということまでは推定できたが，自動抽出の実用化には至らなかった。</p>
<p>9月1日 『文史通義』 卷一「書教下」 訳注 『文史通義』 卷一「書教下」 訳注 発表者：内山直樹（千葉大学）</p>	
<p>9月15日 『文史通義』 卷一「詩教下」 訳注 『文史通義』 卷一「詩教下」 訳注 発表者：竹元規人（福岡教育大学）</p>	
<p>10月6日 『文史通義』 卷一「詩教上」 訳注 『文史通義』 卷一「詩教上」 訳注 発表者：道坂昭廣 （京都大学大学院人間環境学研究科）</p>	<p>研究班員 所内：池田巧，守岡知彦，Christian Wittern</p>

学外：二階堂善弘（関西大学），師茂樹（花園大学），鈴木慎吾（大阪大学），山崎直樹（関西大学）

研究実施内容

2015 年

- 4 月10日 姓氏と名、『固有表現抽出におけるエラー分析』
- 5 月 8 日 姓氏と名
- 5 月22日 星と樹の意味素性，品詞分類（2015.5.22 版）作成
- 6 月 5 日 姓氏と名、『単語の分散表現と構成性の計算モデルの発展』
- 6 月19日 word2vec
- 7 月 3 日 『十八史略』word2vec と word2phrase
- 7 月17日 品詞分類（2015.5.22 版）における「世」「気」「理」「道」
- 9 月14日 「螢」と「蟻」と『三才圖會』
- 9 月25日 『正字通』、『説文解字注』データ、『三才圖會』
- 10月 9 日 『倭漢三才圖會』，古代漢語語料庫
- 10月23日 科学研究費計画調書チェック
- 11月 6 日 姓氏と名
- 11月27日 氏名追加 mecab 辞書
- 12月11日 地名を含む官職についての再検討，人名についての再検討

2016 年

- 1 月 8 日 最終報告書ゲラ稿
- 1 月29日 最終報告書完成
- 3 月18日 「東洋学へのコンピューター利用」第 27 回研究セミナーにて成果発表

毛沢東に関する人文学的研究 班長 石川禎浩

研究期間 2015 年 4 月－2018 年 3 月（1 年度目）

研究実施状況

研究目的の達成に近づくべく，隔週開催の研究班例会を中心に活動を進めた。班員は 30 数名，毎回の研究班例会の出席者は 20 名程度であった。研究班では，まず報告者が 1 時間半程度の報告を行ったあと，コメンテーターが 30 分程度の批評を加え，その上で全体討論を実施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることも

あり，初年度であるにもかかわらず，活発な議論が可能となった。また，2 名の招聘外国人学者と 1 名の外国人共同研究員をはじめ，（主として中華人民共和国からの）複数の外国人研究者・院生が継続的に参加していることも本研究班の特色であり，彼らとの討論を通じて，毛沢東に関する理解をいっそう深めることができた。

研究班員

所内：岩井茂樹，Craig Smith，漆麟，柴田陽一，武上真理子，村上衛，森川裕貴，山崎岳，李虹

学内：江田憲治（人間環境学研究科），瞿艶丹（文学研究科），谷雪妮（文学研究科），高嶋航（文学部），陳亮悟（文学研究科），李ハンキョル（文学研究科）

学外：小野寺史郎（埼玉大），韓燕麗（関西学院大），韓敏（国立民族学博物館），島田美和（慶應義塾大），瀬戸宏（摂南大），瀬辺啓子（仏教大），田中仁（大阪大），谷川真一（神戸大），団陽子（神戸大），中村元哉（津田塾大），丸田孝志（広島大），三田剛史（明治大），水羽信男（広島大），楊韜（仏教大），吉田豊子（京都産業大），李凱航（同志社大学），李冬木（仏教大），若松大祐（常葉大学）

研究実施内容

2015 年

- 4 月17日 毛沢東研究班を始めるにあたって
発表者：石川禎浩
- 5 月 8 日 「毛沢東時代」再考
発表者：田中 仁（大阪大）
コメンテーター：谷川真一（神戸大）
- 5 月22日 林彪派将軍の回想録—— 呉法憲『歲月艱難 呉法憲回憶録』を中心に
発表者：瀬戸 宏（摂南大）
コメンテーター：武上真理子
- 6 月 5 日 青年毛沢東の再検討—— 胡適との関係を起点として 発表者：森川裕貴
コメンテーター：三田剛史（明治大）
- 6 月19日 毛沢東と男性性
発表者：高嶋 航（文）

人 文 学 報

- 7月10日 毛誕節快樂！——毛沢東誕生記念日の研究
 コメンテーター：韓 燕麗（関西学院大）
 発表者：小野寺史郎（埼玉大）
 コメンテーター：山崎 岳
- 10月2日 毛沢東政治と陰謀論
 発表者：谷川真一（神戸大）
 コメンテーター：江田憲治（総合人間）
- 10月16日 1950年代中国の経済学界と毛沢東
 発表者：三田剛史（明治大）
 コメンテーター：小野寺史郎（埼玉大）
- 10月30日 毛沢東の農村調査と華南農村社会
 発表者：村上 衛
 コメンテーター：蒲 豊彦（京都橘大）
- 11月6日 毛沢東の「農村による都市の包囲論」の形成について
 発表者：江田憲治（総合人間）
 コメンテーター：森川裕貫
- 11月27日 毛沢東イメージの形成——日中戦争期から建国初期における物語の成立と展開
 発表者：丸田孝志（広島大）
 コメンテーター：高嶋 航（文）
- 12月18日 中国の現代美術からみる毛沢東図像の「価値」
 発表者：漆 麟（人文研（招聘外国人学者））
 コメンテーター：范 叔如（広島大）
- 2016年
- 1月22日 毛沢東の都市観——建国初期の北京を例に——
 発表者：島田美和（慶応大）
 コメンテーター：柴田陽一（人文研）
- 2月5日 コミンテルン由来の「毛沢東伝略」手稿本について
 発表者：石川禎浩（人文研）
 コメンテーター：丸田孝志（広島大）
- 2月19日 紅衛兵資料整理の現状に関する報告と展望
 発表者：望月直人（人文研）
 発表者：小堀慎悟（文）
 コメンテーター：谷川真一（神戸大）
- 3月4日 毛沢東と新中国の民族工作——新疆における党政軍の浸透に関する初歩的考察——
 発表者：吉田豊子（京都産業大）
 コメンテーター：田中 仁（大阪大）
- 3月18日 毛沢東の歴史観——その背景と形成過程——
 発表者：山崎 岳（人文研）
 コメンテーター：岩井茂樹（人文研）
- 北朝石窟寺院の研究
 班長 岡村秀典
 研究期間 2015年4月—2018年3月（1年度目）
 研究実施状況
 水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』（全16巻32冊、1951～1956年）図版解説の会読を隔週の研究会で実施し、本年度は第11洞と第12洞を検討した。あわせて班員の研究発表として、2016年1月16日に石松日奈子「山西省平定開河寺石窟の隋開皇元年摩崖半跏大仏について——「鎮国王像双丈八」銘をめぐる——」、2月2日に黄盼「中国における最初の仏教造形について」を実施するほか、2月16日には山西大学歴史文化学院講師の王煒・趙傑両先生を囲む交流会、3月15日にはヴェルツブルク大学漢学系上級講師（JSPS外国人招へい研究者）外村中「キジル石窟に描かれた大乘の神変仏について」の公開講演会を実施する。また、当研究所と中国社会科学院考古研究所との共同編集により中国の科学出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分（第8～第16巻）が出版され、増補の第三期（第17～20巻）は図版冊の校正まで進んだ。
- 研究班員
 所内：安岡孝一、稲本泰生、高橋早紀子
 学内：内記理（文化財総合研究センター）
 学外：田中健一（大阪大谷大学）、外山潔（泉屋博古館）、齋藤龍一（大阪市立美術館）、山名伸生（京都精華大学）、向井佑介（京都府立大学）、大西磨希子（佛教大学）、石松日奈子（清泉女子大学）、濱田瑞美（横

浜美術大学), 佐藤智水 (龍谷大学), 田
林啓 (白鶴美術館), 黄盼 (京都府立大
学)

研究実施内容

2015 年

4 月14日 雲岡石窟第十一洞 発表者: 黄 盼

4 月28日 同上

5 月26日 同上

6 月 9 日 同上

6 月23日 同上

7 月14日 同上

7 月28日 同上

10月13日 雲岡石窟第十二洞 発表者: 黄 盼

10月27日 同上

11月10日 同上

11月24日 同上

12月 8 日 同上

12月22日 同上

2016 年

1 月12日 同上

1 月19日 山西省平定開河寺石窟の隋開皇元年摩
崖半跏大仏について—「鎮国王像双丈
八」銘をめぐる—

発表者: 石松日奈子 (清泉女子大学)

1 月26日 雲岡石窟第十二洞 発表者:

2 月 2 日 中国における最初の仏教造形について
発表者: 黄 盼
(京都府立大学文学研究科
D2・非常勤)

2 月 9 日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 桑原正明
(京都大学文学研究科)

2 月16日 北齊韓祖念墓出土銅器研究札記
発表者: WANG WEI
(山西大学歴史文化学院)
山西北齊長城考察

発表者: ZHAO JIE
(山西大学歴史文化学院)

2 月23日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 桑原正明
(京都大学文学研究科)

3 月 8 日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 桑原正明
(京都大学文学研究科)

3 月15日 キジル石窟に描かれた大乘の神変仏に
ついて 発表者: 外村 中

(ドイツ・ヴェルツブルク大学)

3 月22日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 桑原正明
(京都大学文学研究科)

前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトラン
ス・フロンティア 班長 稲葉穰

研究期間 2015 年 4 月—2018 年 3 月 (1 年度目)

研究実施状況

本研究班は、中央アジア、南アジア、西アジアの
フロンティアとしての「歴史的アフガニスタン」に
おいて何が起きてきたのか、そこを越えて移動した
人やモノはフロンティアを超えた先でいかに機能し
たのかを、文献資料や出土資料をもとに検討し、
「前近代におけるグローバリズム」がいかなる実態
を持っていたのか、を明らかにすることを目的とし
て計画された。本年はアフガニスタンの周辺地域に
おける多様な文化交流に関する研究報告と並んで、
9 世紀に Abu Dulaf によって執筆されたアラビア語
の旅行記であるいわゆる『第一書簡』を、20 世紀
初頭にイランのマシュハドで発見された貴重な写本
に基づき開始した会読した。

研究班員

所内: 船山徹, 稲本泰生, 宮本亮一

学内: 中西竜也 (白眉センター), 和田郁子 (白
眉センター), 井谷鋼造 (文学研究科), 吉
田豊 (文学研究科), 帯谷知可 (地域研究
統合情報センター), 今松泰 (アジア・ア
フリカ地域研究研究科), 内記理 (文化財
総合研究センター), 杉山雅樹 (文学研究
科), 田中悠子 (文学研究科)

学外: 岩尾一史 (神戸市外国語大学), 川本正知
(奈良学園大学), 入澤崇 (龍谷大学), 小
野浩 (京都橘大学), 真下裕之 (神戸大
学), 岩井俊平 (龍谷大学), 井上陽 (龍
谷大学), 影山悦子 (奈良文化財研究所),
上枝いづみ (龍谷大学)

研究実施内容

2015 年

4 月24日 前近代ユーラシアにおけるフロンティ

- | | | | |
|----------------------------------|---|-----------------------------------|---|
| アとトランス・フロンティア | | アとトランス・フロンティア | |
| Ibn al-Faḡīh, Kitāb al-Buldān 会読 | | タキシラとインダス上流：2015 年現 | |
| 発表者：中西竜也（白眉センター） | | 地調査の報告 発表者：内記 理 | |
| 5 月 8 日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | （総合文化財研究センター） |
| | 法隆寺・東大寺宝物に見られる「イラン文化」：エフタルとソグドの影響について | 11月27日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア |
| | 発表者：影山悦子（関西大学・非常勤） | | コルディスタンのナクシュバンディーヤとカーディリーヤ：ムジャッディディー科研イラン調査報告 |
| 5 月22日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | 発表者：川本正知（奈良学園大学） |
| | 前近代インドにみる「越境」の男女関係：接触が作り出す「境界」 | 12月11日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア |
| | 発表者：和田郁子（白眉センター） | | Abū Dulaf Miṣ'al ibn Muḡalhil, Risāla al-awwal 会読 |
| 6 月12日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | 発表者：稲葉 稜（人文科学研究所） |
| | 『ラージャタランギー』のペルシア語訳と『ユースフとズライハー』のサンスクリット語訳について | 2016 年 | |
| | 発表者：小倉智史（日本学術振興会） | 1 月15日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア |
| 7 月10日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | Abū Dulaf Miṣ'al ibn Muḡalhil, Risāla al-awwal 会読 |
| | 16 世紀中葉インド・中央アジア・イランの旅：オスマン海軍提督の記録から | | 発表者：稲葉 稜（人文科学研究所） |
| | 発表者：今松 泰（アジア・アフリカ地域研究研究科） | 1 月15日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア |
| 7 月24日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | Abū Dulaf Miṣ'al ibn Muḡalhil, Risāla al-awwal 会読 |
| | ふたつの海のスルターン：文献資料と刻銘文資料の接点 | | 発表者：稲葉 稜（人文科学研究所） |
| | 発表者：井谷鋼造（文学研究科） | 2 月19日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア |
| 9 月25日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | 中国ムスリムとウンマ |
| | バーミヤーン大仏に関するイスラム資料の記述について | | 発表者：中西竜也（京都大学白眉センター） |
| | 発表者：稲葉 稜（人文科学研究所） | 3 月25日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア |
| 10月23日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア | | 『集史』インド史・釈迦牟尼傳をめぐ |
| | Ibn al-Faḡāh, Kitāb al-Buldān 会読 | | る諸問題 |
| | 発表者：宮本亮一（人文科学研究所） | | 発表者：小倉智史（日本学術振興会） |
| 11月13日 | 前近代ユーラシアにおけるフロンティア | 清華大学蔵戦国竹書を読む ― 中国古代の基礎史料 | |
| | | 班長 浅原達郎 | |
| | | 研究期間 2013 年 4 月―2016 年 3 月（3 年度目） | |

研究実施状況

引き続き『清華大学蔵戦国竹簡』第二冊の纂年を読んでいる。読みかけの第八章から始めて、最終章第二十三章を読んでいるところである。毎章読み終るごとに、その章の読みどころがどこにあるかを考えているのだが、なかなかよくわからない場合が多い。しかししだいにそれがつかめて来ているという手ごたえはある。表面上は単なる事実の羅列に見えるが、そこに作者の意図が隠されていることに注意して読むべきなのであろう。『曰古』第二十四号(四月十七日)、第二十五号(十月九日)を発行した。第二十四号には、上海博物館蔵楚簡の三徳、鬼神之明・融師有成氏についての読書札記、同じく蘭賦の配列についての試案、さらに清華大学蔵簡・楚居にかかわる試論を掲載した。第二十五号には学生班員による論文二篇を得て収録した。第二十六号は年度があけて四月十五日刊行の予定である。

研究班員

所内：宮紀子、守岡知彦

学外：森賀一恵(富山大学)

研究実施内容

2015 年

- 4 月17日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第八章(46)簡より
- 4 月24日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第八章(48)簡より
- 5 月1日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第九章(50)簡より
- 5 月8日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十章(54)簡より
- 5 月15日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十一章(56)簡より
- 5 月22日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十一章(57)簡より
- 5 月29日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十二章(61)簡より
- 6 月5日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十三章(64)簡より
- 6 月12日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十四章(66)簡より
- 6 月19日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十四章

(70)簡より

- 6 月26日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十五章(74)簡より
- 7 月3日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十五章(77)簡より
- 7 月10日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十五章(80)簡より
- 7 月17日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十五章(82)簡より
- 10月2日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十六章(85)簡より
- 10月9日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十六章(88)簡より
- 10月23日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十七章(91)簡より
- 10月30日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十八章(96)簡より
- 11月6日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十八章(100)簡より
- 11月13日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第十九章(104)簡より
- 11月27日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十章(108)簡より
- 12月4日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十章(111)簡より
- 12月11日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十一章(114)簡より
- 12月18日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十一章(115)簡より

2016 年

- 1 月22日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十二章(119)簡より
- 1 月29日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十二章(119)簡より
- 2 月5日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十二章(121)簡より
- 2 月12日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十二章(123)簡より
- 2 月19日 「清華大学蔵戦国竹簡」纂年第二十三章(126)簡より

東アジアの宗教文化と自然学 班長 武田時昌

研究期間 2015 年 4 月－2018 年 3 月（1 年度目）

研究実施状況

東アジアの自然学の形成と展開において、宗教文化の果たした役割は大きい。宇宙論や世界観に関して、古代の蓋天説、渾天説が仏教の唱えた須弥山説、イエズス会士がもたらしたアリストテレス宇宙構造論及びコペルニクスの地動説に発端する近世ヨーロッパの新知識の伝来によってどのような変容を受けたのかについて具体的な様相を探った。とりわけ、円通の『仏国暦象編』を読解しながら、方以智、梅文鼎等の著作や本木良永、志筑忠雄の地動説、ニュートン物理学に関する翻訳書をめぐる日本近世的な展開を、比較文化論的なアプローチから分析的に考察した。また、道教文化との関わりを探索するための基礎作業として、象数易や占術への遡及的な考察を試み、班員による研究発表を行いながら、先秦方術から道教、術数学への史的展開を討議した。6 月中旬には国内外の天文学者、科学史家を多数招聘して古今の宇宙論に関するアジア伝統科学国際ワークショップ（藪内清博士追悼研究集会 2015）を開催し、12 月には形の文化研究会（代表：山口義久大阪府立大学名誉教授）との共催で研究集会を行った。

研究班員

所内：武田時昌，Bill Mak，高井たかね

学内：呂鵬（文学研究科），上田真啓（文学研究科），伊藤裕水（文学研究科 D2）

学外：前原あやの（関西大学），林隆夫（同志社大学），宮島一彦（同志社大学），清水浩子（大正大学），矢野道雄（京都産業大学・名誉教授），梅林誠爾（熊本県立大学・名誉教授），白雲飛（大阪府立大学・客員研究員），平岡隆二（熊本県立大学・准教授），小林博行（中部大学・准教授），岡田正彦（天理大学・教授），吉田薫（日本スペースガード協会），佐々木聡（大阪府立大学・特別研究員），福島雅淳（神戸学院大学），名和敏光（山梨県立大学），古藤友子（国際基督教大学），宮崎順子（大阪市立大学），船橋優希（占術研究家），奈良場勝（暁星高校教諭），倉橋弘美（有

限会社アペイロン社長・中原中也研究会理事長），大野裕司（北海道大学），金東鎮（近畿大学）

研究実施内容

2015 年

4 月15日 正覚寺の須弥象について

発表者：宮島一彦（同志社大学）

善兵衛ランドの平天儀について

発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）

5 月10日 阿弥陀寺の須弥象の調査について

発表者：宮島一彦（同志社大学）

『仏国暦象編』巻之五「論五星測驗起於印度」

発表者：Bill Mak（麦 文彪）

5 月24日 九宮について

発表者：清水浩子（大正大学）

占書『礼緯含文嘉』に見える望気術と取宝儀礼

発表者：佐々木聡

（大阪府立大学・特別研究員）

6 月14日 正覚寺の調査

発表者：宮島一彦（同志社大学）

『仏国暦象編』巻之五「論五星測驗起於印度」（続）

発表者：Bill Mak（麦 文彪）

6 月18日 藪内清博士追悼 アジア伝統科学国際ワークショップ 2015 公開講演会

「時空を超えて交差する宇宙観 — 自然科学者と人文学者が語る宇宙観 —」

宇宙にまつわるアジアの神話・伝説と宇宙観

発表者：海部宣男（国立天文台）

宿曜道にみられるインドの天文学と占星術

発表者：矢野道雄（京都産業大学）

司会：武田時昌（人文科学研究所）

6 月18日 藪内清博士追悼 アジア伝統科学国際ワークショップ 2015 「古今の宇宙観」

[An Interdisciplinary Investigation into Overlapping Cosmologies]

Beyond Science: Indian-Chinese Astronomy in the Popular Realm

- 発表者：Tansen Sen
(Baruch College, CUNY)
Tallying with Heaven: the Fu-tian 符天 in the Naturalization of a “western” Astral Science in China
発表者：諫早庸一（東京大学）
Buddhist Cosmology in Bhutanese Murals: An Iconographic Understanding of the Negotiation between Kālacakra and Abhidharmakośa Cosmologies
発表者：Eric Huntington
(Princeton University)
A Supernova in the Heian Period — the Historical Record and Modern Astronomy
発表者：小山勝二（理学研究科）
Ancient Solar Activities Recorded in Literature 発表者：早川尚志
(文学部文学研究科)
司会：Bill Mak（麦文彪）
(人文科学研究所)
- 6月19日 アジア伝統科学国際ワークショップ
2015 — 古今の宇宙観 —
[An Interdisciplinary Investigation into Overlapping Cosmologies]
Fengshui Protection: The Four Mythical Beasts and Shinto Shrines
発表者：Ellen van Goethem
(九州大学)
Representing the Unknown: The Eighth-Century Pedestal of Yakushiji's Master of Medicine Buddha
発表者：Cynthia J. Bogel（九州大学）
Poeticized Cosmologies: Post-Modern Realms and Dedicatory Prayers in Ancient Japan 発表者：Bryan Lowe
(Vanderbit University)
Tortoise Shells as Cross-Cultural Compass: Chinese and Tibetan Similarities
発表者：Anna-Alexandra Fodde Reguer

- (Saint Joseph's University)
How a Confucian World-View Integrated New Knowledge of Europe and Southeast Asia within a Traditional Framework 発表者：Cindy Postma
(King's College)
A Sphere unto Itself: the Death and Medieval Framing of the History of Chinese Cosmography
発表者：Daniel P. Morgan
(CNRS-Paris VII)
Cosmology at the Crossroads: the Harvard Traibhumi Manuscript
発表者：Peter Skilling
(Ecole française d'Extrême-Orient, Bangkok)
司会：Bill Mak（麦文彪）
(人文科学研究所)
- 7月19日 『歌川國芳「智多星呉用」と古観象台の観測器』について
発表者：宮島一彦
(同志社大学・非常勤)
キトラ古墳天文図の年代および緯度に関する新説について
発表者：宮島一彦
(同志社大学・非常勤)
『仏国暦象編』巻之五「論西洋測量無所適從」「論日月体量内外諸説不同」
発表者：宮島一彦
(同志社大学・非常勤)
- 8月1日 馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇全體構造の復原について
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 9月11日 渾天壺統星象全図と渾天儀の調査報告
発表者：宮島一彦
(同志社大学・非常勤)
『仏国暦象編』巻之五「論言輿地廣狹内外典其説大異」
発表者：小林博行（中部大学）
『仏国暦象編』巻之五「論周髀所言四極節氣之差與佛説契合」

- | | |
|---|---|
| <p>発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）</p> <p>10月1日 『仏国暦象編』巻之五「論周髀所言四極節氣之差與佛說契合」（続）</p> <p>発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）</p> <p>11月5日 『仏国暦象編』巻之五「論周髀所言四極節氣之差與佛說契合」（続）, 「論西法地度不合其實」</p> <p>発表者：宮島一彦（同志社大学）</p> <p>12月3日 『仏国暦象編』巻之五「論世間天說正與邪並不出南方一洲義」「举周髀之正以徵西說不經」</p> <p>発表者：小林博行（中部大学）</p> <p>12月19日 無と有を繋ぐ世界
文化の概念と問題点～文化人類学と形の文化研究における視点の違い</p> <p>発表者：片桐尉晶
（形の文化会・会員）</p> <p>中国近世易図説新探</p> <p>発表者：金 東鎮
（近畿大学・非常勤）</p> <p>易の起源とその構造 — 新出土資料による</p> <p>発表者：大野裕司
（北海道大学・研修員）</p> <p>言は意を尽くさず — 中国的不可知論</p> <p>発表者：武田時昌（人文科学研究所）</p> | <p>発表者：矢野道雄（京都産業大学）</p> <p>3月3日 『仏国暦象編』巻三「論梵曆大概」（続）
「探大藏中出梵曆立法不同十二」</p> <p>発表者：矢野道雄（京都産業大学）</p> <p>4月1日 『仏国暦象編』巻三「探大藏中出梵曆立法不同十二」（続）</p> <p>発表者：矢野道雄（京都産業大学）</p> <p>4月28日 『仏国暦象編』巻三「探大藏中出梵曆立法不同十二」（続）</p> <p>発表者：小林博行（中部大学）</p> <p>『仏国暦象編』巻三「辨曆之啓閉起於印度」</p> <p>発表者：矢野道雄（京都産業大学）</p> |
| <p>2016 年</p> | |
| <p>1月7日 『仏国暦象編』巻三「論梵曆大概」</p> <p>発表者：宮島一彦（同志社大学）</p> <p>発表者：矢野道雄（京都産業大学）</p> <p>1月9日 東京ミーティング2016
『金瓶梅』の葬礼における居住空間と女性</p> <p>発表者：上なつき
（人間環境学研究科 O.D.）</p> <p>尚書大伝初探</p> <p>発表者：伊藤裕水
（文学研究科・院生）</p> <p>類書に見る「異界」訪問譚の変遷</p> <p>発表者：伊藤令子
（文学研究科・院生）</p> <p>囲碁の極意と魅力</p> <p>発表者：李 章元
（人間環境学研究科・院生）</p> <p>2月4日 『仏国暦象編』巻三「論梵曆大概」（続）</p> | <p>近代アジアにおける思想連鎖と文化連鎖</p> <p>山室 信一</p> <p>南アジアの宗教と社会/近代における暴力, セクシュアリティ, 宗教</p> <p>田中 雅一</p> <p>文学理論の研究</p> <p>大浦 康介</p> <p>ヴェーダ文献の生成と伝承の研究</p> <p>藤井 正人</p> <p>人種・エスニシティ論</p> <p>竹沢 泰子</p> <p>戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク</p> <p>籠谷 直人</p> <p>近代天皇制の文化史的研究</p> <p>高木 博志</p> <p>近代西洋音楽史</p> <p>岡田 暁生</p> <p>近代日本の芸術と西洋</p> <p>高階絵里加</p> <p>イギリス・アイルランド近現代史</p> <p>小関 隆</p> <p>近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想</p> <p>王寺 賢太</p> <p>近世社会解体過程の研究</p> <p>岩城 卓二</p> <p>精神分析的知の思想史的位置づけ</p> <p>立木 康介</p> <p>近代トランスコーカサス（特にグルジア）における匪賊</p> <p>伊藤 順二</p> <p>西アフリカと南アジアの宗教, 憑依, 間身体性</p> <p>石井 美保</p> <p>東アジアにおける生命科学と「自然」</p> <p>瀬戸口明久</p> <p>農業史の再構築</p> <p>藤原 辰史</p> <p>島崎藤村その他の近代文学者の作品研究 — リアリ</p> |

個人研究

人文学研究部

ズム, メディア, 帝国 HOLCA, Irina
 近代日本民俗誌システムの研究 菊地 暁
 近代西洋医学発展史研究および身体論 田中祐理子
 アフリカ系アメリカ人の思想哲学, 教育, 社会運動
 小池 郁子
 啓蒙と文学 — アドルノ美学における「人間性」の
 位置づけ — 藤井 俊之
 無声映画史 小川佐和子
 近代朝鮮の民族運動と東アジア 小野 容照

東方学研究部

清代の文化と社会 井波 陵一
 中国古代中世の法制 富谷 至
 中国伝統科学の思想史的考察 武田 時昌
 近代中国の財政と社会 岩井 茂樹
 先秦時代の金文 浅原 達郎
 古代中国の考古学研究 岡村 秀典
 イスラーム東漸史の研究 稲葉 稜
 インド・中国における仏教の学術と実践 船山 徹
 仏教研究知識ベース — 禅仏教を例として
 WITTERN, Christian
 川西走廊の漢藏諸語の記述研究 池田 巧
 中国共産党史の研究 石川 禎浩
 文字コード理論 安岡 孝一
 秦漢制度史の研究 宮宅 潔
 高麗官僚制度研究 矢木 毅
 中国注釈学史研究 古勝 隆一
 近代華南沿海の社会経済制度の変容 村上 衛
 東アジア仏教美術史の研究 稲本 泰生
 中国中世近世の文学理論 永田 知之
 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究
 守岡 知彦
 中国古代中世の官制史 藤井 律之
 東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の
 研究 宮 紀子
 中国家具とその使用に関する研究 高井たかね
 中国古代における領域支配の研究 土口 史記
 秦漢期国家儀礼の研究 目黒 杏子
 中国近現代の知識人と政治 森川 裕貴

事業概況

・京都レクチャー 2015

2015年4月21日

於 京都大学人文科学研究所 本館1階 セミ
 ナー室1

Kyoto Lecture 2015「Spiritual Homeland, Internal
 Colony, Another Japan: T・hoku in Twentieth-
 Century Thought and History」

講演者: (名古屋大学大学院)

Nathan Hopson

・連続セミナー (人文研アカデミー)

2015年5月, 6月

於 京都大学人文科学研究所 本館1階 セミ
 ナー室1他

科学・国家・人種

5月7日 科学・国家・人種 — イントロダク
 ション 竹沢 泰子

「縄文人」と「弥生人」— 日本考古学
 についての「人種」

(日本大学経済学部教授) 坂野 徹

5月14日 人種と科学から生を奪い返す — アメ
 リカ期フィリピンのハンセン病者

(名古屋大学大学院国際開発研究科
 准教授)

5月21日 インドにおける身体の贈与と共同性
 日下 渉

石井 美保

5月28日 帝国日本の〈内なる他者〉と科学的
 人種主義

(四国大学経営情報学部准教授)

6月4日 科学者の「人種」概念批判と保身 —
 フランスの事例から
 関口 寛

(CNRS フランス国立科学

研究センター准教授)

アルノ・ナンタ

人 文 学 報

・特別シンポジウム（人文研アカデミー）

2015 年 5 月 12 日

於 人文科学研究所本館一階セミナー室 1

戦後 70 年 The Impact of Colonialism on Eritrean Identity (エリトリア・アイデンティティに対する植民地主義のインパクト)

講演者：(ウプサラ大学名誉教授)

Tekeste Negash

司会：藤原 辰史

コメント：水野 直樹

・京都レクチャー 2015

2015 年 5 月 13 日

於 人文科学研究所本館一階セミナー室 1

Kyoto Lecture 2015 「Samurai, Castle, and the Search for the Soul of Japan」

講演者：(ヨーク大学准教授) Oleg Benesch

・ジャズ・コンサート（人文研アカデミー）

2015 年 5 月 16 日

於 京都府立府民ホール アルティ

琳派 400 年記念「すごいジャズには理由（わけ）がある」

ピアノ：ジャズ・ピアニスト

(フィリップ・ストレンジ)

話者：岡田 暁生

・京都レクチャー 2015

2015 年 5 月 27 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1F セミナー室 1

Kyoto Lecture 2015 「Bodies that Could Kill: Female Sexuality in 21st Century Anti-Japanese War Films of China」

講演者：(関西学院大学) Timothy Y. Tsu

・連続セミナー（人文研アカデミー）

2015 年 6 月

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミナー室 1

日本宗教史再入門

6 月 4 日 京都から見た近代仏教

(佛教大学社会学部准教授)

大谷 栄一

(本願寺史料研究所研究員)

近藤俊太郎

6 月 11 日 南島キリスト教交流史入門 ―〈貫流〉

〈循環〉〈越流〉をキーワードに―

(帝京科学大学総合教育センター

准教授)

一色 哲

6 月 19 日 君は他人様の墓に参ったことがあるか?! (元興寺文化財研究所研究員)

角南聡一郎

(ものづくり大学准教授) 土居 浩

6 月 26 日 治せばわかる ― 霊術家たちの不思議な世界 (日本学術振興会特別研究員)

栗田 英彦

(舞鶴工業高等専門学校) 吉永 進一

・公開セミナー

2015 年 6 月 13 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミナー室 1

映画『授業料』(1940 年)と戦時期朝鮮の教育状況
朝鮮映画『授業料』発掘と映画史的価値

講演者：(韓国映像資料院専任研究員)

チョン・ジョンファ

戦時期朝鮮の教育状況

講演者：(韓国培材大学校教授) カン・ミョンスク

・レクチャー上映会（人文研アカデミー）

2015 年 6 月 14 日

於 京都大学時計台記念館国際交流ホールⅢ

記憶の場：昭和の大礼と映画都市京都

講演者：(立命館大学映像学部教授) 富田 美香

コメント：高木 博志

無声映画上映会 ― DVD 上映会

『崇禪寺馬場』 1929 年

監督：マキノ正博

『三朝小唄』 1929 年

監督・脚本：人見吉之助

活動弁士：片岡 一郎

ピアノ伴奏：(サイレント映画ピアニスト)

柳下 美恵

司会：小川佐和子

講演者：(国立天文台名誉教授、
国際天文学連合会長)

海部 宣男

・国際研究集会

2015 年 6 月 16 日

於 京都大学人文科学研究所 1 階・セミナー室 2
帝国と肥料

講師：(ミネソタ大学歴史学部准教授・

国際交流基金ロングターム

リサーチフェロー)

HIROMI Mizuno

主催者：瀬戸口明久

宿曜道にみられるインドの天文学と占星術

講演者：(京都産業大学名誉教授) 矢野 道雄

・ビブリオトーク (人文研セミナー)

2015 年 6 月 26 日, 27 日

於 熊本市立図書館他

居場所に関するビブリオトーク

クマタカとエチオピアの〈あいだ〉

対談式講座：クマモトとトーキョーの〈あいだ〉

講師：(岡山大学文学部准教授)

松村圭一郎

藤原 辰史

・藪内清博士追悼天文暦法国際ワークショップ

2015 年 6 月 17 日-19 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

分館東アジア人文情報学研究センター 2 階会

議室

アジア伝統科学国際ワークショップ 2015：古今の
宇宙観International Workshop on Traditional Sciences in
Asia 2015: An Interdisciplinary Investigation into
Overlapping Cosmologies

・京都レクチャー 2015

2015 年 6 月 30 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1F セミ
ナー室 1Kyoto Lecture 2015 「Walking in the Garden: Aes-
thetics of Spatiality in Versailles and Murin-an」

講演者：Cathrine Szántó (景観設計家)

・京都レクチャー 2015

2015 年 6 月 17 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1F セミ
ナー室 1Kyoto Lecture 2015 「Japanese Singers of Tales:
Ten Centuries of Performed Narrative, A Book
Talk」

講演者：(京都市立芸術大学) Alison Tokita

・夏期公開講座 (人文研アカデミー)

2015 年 7 月 4 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 共通 1
講義室

名作再読

講師：

『アンのかぐりかご』を読む — 村岡花子と植民地朝鮮
—

講師：小野 容照

『官場現形記』を読む — 清末中国「腐敗」官僚の世
界 —

講師：村上 衛

石橋湛山を読む — 自由主義と現実主義の真面目を
尋ねて —

講師：山室 信一

・アジア伝統科学国際ワークショップ 2015 公開講
演会

2015 年 6 月 18 日

於 京都大学人文科学研究所分館東アジア人文情
報学研究センター 2 階会議室時空を超えて交差する宇宙観 — 自然科学者と人文
学者が語る宇宙観 —

宇宙にまつわるアジアの神話・伝説と宇宙観

・国際研究集会

2015 年 7 月 14 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
ナー室 2

人 文 学 報

Can we speak of 'political parties' in medieval Italy?

講師：(King's College, London)

Serena Ferente

主催者：小関 隆

漢籍について（四部分類概説を含む）

永田 知之

カードの取り方ー漢籍整理の実践

土口 史記

第2日（9月29日）

工具書について

高井たかね

漢籍関連サイトの利用

（京都大学附属図書館

情報サービス課相互利用掛）

・高校生のための夏期セミナー

2015年8月7日

於 京都大学人文科学研究所分館東アジア人文情

報学研究センター大会議室

漢字文化への誘い-第3回「時には、書物にかんして語ろう」

大西 賢人

読む・書く・写す・印刷する-漢字ばかりの本ができるまで

実習を始めるにあたって

梶浦 晋

漢籍目録カード作成実習

第3日（9月30日）

目録検索とデータベース検索 安岡 孝一

漢籍データ入力実習（1）

第4日（10月1日）

和刻本について

（京都大学文学研究科教授）宇佐美文理

漢籍データ入力実習（2）

2015年8月9日，10日

於 京都大学人文科学研究所 本館1階 セミナー室1

Complexity of Innovative Colonial Milieu: Socio-Economic Transformation in the Colonial Ports and their Hinterlands in Modern Asia, 1850s-1940s（近代アジアの植民地港湾都市を起点とした社会経済的変容とその相克）

第5日（10月2日）

朝鮮本について

矢木 毅

実習解説

土口 史記

情報交換

WITTERN, Christian

2015年度漢籍担当職員講習会（中級）

第1日（11月9日）

オリエンテーション

富谷 至

経部について

古勝 隆一

叢書部について

藤井 律之

叢書と漢籍データベース

安岡 孝一

・公開講演会

2015年9月1日

於 京都大学人文科学研究所共通1講義室

日本デジタル・ヒューマニティーズ学会 2015 (JADH2015) 講演

デジタルアーカイブと図書館：シェイクスピア資料のデジタル化を通じて

第2日（11月10日）

史部について

宮宅 潔

漢籍データ入力実習（1）

第3日（11月11日）

子部について

古勝 隆一

漢籍データ入力実習（2）

第4日（11月12日）

集部について

京都大学人間・環境学研究科教授

道坂 昭廣

・東アジア人文情報学研究センター講習会

2015年度漢籍担当職員講習会（初級）

第1日（9月28日）

漢籍データ入力実習（3）

オリエンテーション

富谷

至

第5日（11月13日）

漢籍と情報処理 WITTERN, Christian
 実習解説 土口 史記
 情報交換 WITTERN, Christian

国際シンポジウム『Echoes of Elvis — グローバル・
 アイコンの軌跡』

世界のキング — 翻訳されてゆくエルヴィス像
 講演者：(ペンシルヴェニア大学)

・ビブリオトーク (人文研アカデミー)

2015 年 10 月 17 日, 18 日

於 熊本県立図書館大研修室他

アジアと熊本をめぐるビブリオトーク

10月17日 アジアを生きる — 熊本からの往還

山室 信一

10月18日 藤原辰史のキッチントーク

藤原 辰史

アジアと熊本をめぐるビブリオトーク

メンフィス英雄神話 — リアル・ロックンローラー、
 文化的オブセッション、歴史的ナラティブ内部の元
 型的モチーフ

講演者：(ペリー演劇図書館館長)

エドマンド・ウォーレン・ペリー・Jr.

プレスリーの声の浸透と、日本の身体文化における
 その変容

講演者：(東京大学名誉教授) 佐藤 良明

司会：立木 康介

・連続セミナー (人文研アカデミー)

2015 年 10 月

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
 ナー室 1 他

チベット学の現在：言語・歴史・文化・社会

10月1日 藏羌彝民族走廊の諸言語 池田 巧

10月8日 チベット文明の始まりと建国の神話

(神戸市外国語大学非常勤講師)

岩尾 一史

10月15日 占いからみたチベット文化の底流

(神戸市外国語大学非常勤講師)

西田 愛

10月22日 いまを生きるボン教徒 — 東チベット

のフィールドから

(金沢星稷大学専任講師) 小西 賢吾

・文学カフェ (人文研アカデミー)

2015 年 11 月 4 日

於 京都大学総合研究 3 号館 155 講義室

人文研アカデミー文学カフェ「働くことと食べるこ
 と」

講師：(作家) 津村記久子

講師：藤原 辰史

・京都レクチャー 2015

2015 年 11 月 24 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
 ナー室 1

Kyoto Lecture 2015 「Japanese Fluxus: The roaring
 avant-garde」

講演者：(ヴェネツィア大学) Luciana Galliano

・京都レクチャー 2015

2015 年 10 月 16 日

於 京都大学人文科学研究所本館 1 階セミナー室

Kyoto Lecture 2015 「Cosmogonic Myths in the
 Tibetan Bon Magic Ritual of the Blazing Water
 (dbal chu)」

講演者：(ナポリ東洋大学) Giacomella Orofino

・京都レクチャー 2015

2015 年 12 月 08 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
 ナー室 1

Kyoto Lecture 2015 「The Robotic Housekeeper:
 Rethinking Japanese Domesticity through the
 Image of Kaseifu」

講演者：(ウェズリアン大学) Miri Nakamura

・国際シンポジウム

2015 年 10 月 24 日

於 アンステイチュ・フランセ関西・稲畑ホール

・公開講演会

2015 年 12 月 12 日

於 京都大学東京オフィス

名誉・暴力・ジェンダー ～中央アジア、インド、
中東からの視点～

ウズベキスタンの名誉と女性に対する日常の暴力

講師：(中部大学全学共通教育部
全学共通教育科講師)

和崎 聖日

インド・ムンバイの売春街におけるジェンダー、宗
教、カースト

田中 雅一

IS と女性の表象

(東京大学院総合文化研究科特任准教授)

辻上奈美江

・京都レクチャー 2015

2015 年 12 月 18 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
ナー室 1

Kyoto Lecture 2015 「Going on Pilgrimage in 19th
Century China: The itinerary network in the
Canxue zhijin 参學知津」

講演者：(テンプル大学) Marcus Bingenheimer

・国際シンポジウム

2015 年 12 月 19 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

日清戦争と東学農民戦争 ― その東アジア史的位
置 東学農民戦争の研究状況と課題 ― 東学農民戦争
120 周年を過ごして

講演者：(圓光大学校教授) 朴 孟洙
日清戦争と明治維新の東アジア史的位
置を検討する
ために ― 朝鮮抗日農民戦争の現地調査から

講演者：(北海道大学名誉教授) 井上 勝生

コメント：(佛教大学教授) 原田 敬一

司会：高木 博志

・公開講演会

2016 年 1 月 9 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

ヴィーナ・ダス 精神疾患と正常化／規範化の権力

― インド・デリーの事例から

講師：(ジョンズ・ホプキンス大学教授)

ヴィーナ・ダス

コメンテーター：(京都大学大学院アジア・
アフリカ地域研究科教授)

田辺 明生

コメンテーター：(ペンシルバニア州立大学助教)

ラン・ツヴィゲンバーク

司会：田中 雅一

司会：(立命館大学准教授)

アンドレア・デ・アントーニ

・国際研究集会

2016 年 1 月 23 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
ナー室 1

近世後期における水戸藩の儒教儀礼 ―『喪祭儀略』
と『喪祭式』を中心に―

報告者：(淡江大学副教授、京都大学

人文科学研究所招へい研究員)

田 世民

・国際ワークショップ

2016 年 2 月 13 日

於 京都大学人文科学研究所 3 階セミナー室 4

東アジアにおける叙述と歴史

司会：森岡 優紀

Narrative Rupture in Matayoshi Eiki's Ginnemu
Yashiki (断絶する語り：又吉栄喜『ギンネム屋
敷』)

(ワシントン大学准教授)

Davinder Bhowmik

『贈与』と『文』：柄谷の「帝国」論を中国思想から
読む

(東京大学准教授) 林 少楊

歴史叙述と記憶：伝記からみる連鎖と反転の東アジ
ア

(京都大学人文科学研究所特別研究員)

森岡 優紀

パネルディスカッション ― 語りの交換・重層・伝
播

山室 信一

(成城大学教授) 陳 力衛

・特別シンポジウム（人文研アカデミー）

2016 年 2 月 16 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
ナー室 1

食の人文学 ―「かかわり」から考える

解題：藤原 辰史

身体の開鎖と食の断絶 ―拒食と過食のフィールド
ワークを通じて

登壇者：（国際医療福祉大学大学院講師）

磯野 真穂

胃袋の近代 ―食と人びとの日常史

登壇者：（筑波大学准教授）湯澤 規子

コメンテーター：（京都大学東南アジア研究所）

木村 友美

コメンテーター：（京都大学大学院文学研究科）

安井 大輔

コメンテーター：藤原 辰史

司会：（京都大学東南アジア研究所）

河野 泰之

・第 11 回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

2016 年 3 月 14 日

於 一橋大学一橋講堂中会議場

目録学に親しむ

司会：WITTERN, Christian

挨拶：富谷 至

漢籍目録を読む―俯瞰の楽しみ

講演者：古勝 隆一

子部書の分類について

講演者：（京都大学文学研究科教授）

宇佐美文理

目録学の総決算 ―『四庫全書』をめぐって

講演者：永田 知之

・水野直樹教授退職記念講演会

2016 年 3 月 17 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 共通 1
講義室

戦時朝鮮の社会を読む ―植民地研究と映画

講演者：水野 直樹

・国際ワークショップ（人文研アカデミー）

2016 年 3 月 19 日

於 京都大学人文科学研究所本館共通 1 講義室
「権力―知」か、「国家装置」か ―(68 年 5 月) 後の
フーコーとアルチュセール

講演者：（コロンビア大学ロースクール）

バーナード・ハーコート

講演者：（オーストラリア国立大学

社会科学部）

ノックス・ピーデン

講演者：（神戸大学国際文化化学研究所）

市田 良彦

講演者：（立命館大学先端総合学術研究科）

小泉 義之

講演者：（法政大学経済学部）長原 豊

・公開合評会（人文研アカデミー）

2016 年 3 月 20 日

於 京都大学人文科学研究所本館共通 1 講義室
現代思想と政治 ―資本主義・精神分析・哲学（市
田良彦・王寺賢太共編，平凡社，2016）をめぐって
講評及び討議

（一橋大学言語社会研究科）鵜飼 哲

（大阪大学人間科学研究科）檜垣 立哉

（京都大学公共政策大学院）森川 輝一

京都大学人文科学研究所「ヨーロッパ現代
思想と政治」共同研究班班員

所員動静

・井波陵一教授（附属東アジア人文情報学研究セ
ンター）を当研究所長に併任（4 月 1 日～2017
年 3 月 31 日）

・富谷至教授（東方学研究部）を附属東アジア人
文情報学研究センター長に併任（4 月 1 日
～2016 年 3 月 31 日）

・石川禎浩教授（現代中国研究センター）を附属
現代中国研究センター長に併任（4 月 1 日
～2017 年 3 月 31 日）

・小関隆准教授（人文学研究部）は，当研究所

(人文学研究部) 教授に昇任 (4月1日付)

- ・ 矢木毅准教授 (東方学研究部) は, 当研究所 (東方学研究部) 教授に昇任 (4月1日付)
- ・ 安岡孝一准教授 (附属東アジア人文情報学研究センター) は, 当研究所 (附属東アジア人文情報学研究センター) 教授に昇任 (4月1日付)
- ・ 井狩彌介は, 客員教授 (文化研究創成研究部門, 4月1日～2016年3月31日)
- ・ JACQUET, Benoit Marcel Maurice フランス国立極東学院京都支部長は, 客員准教授 (文化研究創成研究部門, 4月1日～2016年3月31日)
- ・ 武上真理子 人間文化研究機構地域研究推進センター研究員は, 客員准教授 (附属現代中国研究センター, 4月1日～2016年3月31日)
- ・ 藤本幸夫は, 特任教授 (文化研究創生研究部門, 4月1日～2016年3月31日)
- ・ VITA, Silvio 京都外国語大学教授は, 特任教授 (4月1日～2016年3月31日)
- ・ 小林隆道は, 特定助教 (附属東アジア人文情報学研究センター) に採用 (4月1日付)
- ・ 目黒杏子は, 特定助教 (附属東アジア人文情報学研究センター) に採用 (4月1日付)
- ・ 森川裕貫は, 特定助教 (附属現代中国研究センター) に採用 (4月1日付)
- ・ 岩井茂樹教授 (国際高等教育院) を当研究所 (東方学研究部) に併任 (5月1日付)
- ・ 山崎岳助教 (東方学研究部) は, 辞任の上 (2016年3月31日付), 奈良大学文学部准教授に就任
- ・ 小林隆道特定助教 (附属東アジア人文情報学研究センター) は, 辞任の上 (2016年3月31日付), 神戸女学院大学文学部総合文化学科専任講師に就任
- ・ 安藤房枝助教 (東方学研究部) は, 任期満了により退職 (2016年3月31日付)
- ・ 水野直樹教授 (人文学研究部) は, 定年により退職 (2016年3月31日付)

招へい研究員

- ・ 徐 静波 復旦大学日本研究センター教授, 副センター長
近代日本知識人の中国認識 (1920-1945)
(文化連関研究部門) 受入教員 山室教授
期間 4月1日～8月31日
- ・ Jensen, Casper Bruun Honorary Fellow, School of Management, Science and Technology Studies, University of Leicester
自然を社会化する一環境問題に対するインフラストラクチャーの対応
(文化生成研究部門) 受入教員 石井准教授
期間 7月5日～2016年1月5日
- ・ 田 世民 淡江大学日本語文学系助理教授
東アジアから考える日中文化思想交流
(文化連関研究部門) 受入教員 岩城准教授
期間 8月16日～2016年2月15日
- ・ 安 相佑 韓国韓医学研究院 責任研究員
日本残存韓医学資料の研究
(文化生成研究部門) 受入教員 武田教授
期間 2016年1月20日～2016年4月19日
- ・ 童 嶺 南京大学文学院副教授
域外漢籍及び十六国・北朝思想史と学術史の研究
(文化連関研究部門) 受入教員 永田准教授
期間 2016年3月7日～2016年6月6日

招へい外国人学者

- ・ 茅 海建 University of Macau 教授
戊戌変法と明治日本
受入教員 石川教授
期間 7月15日～8月14日
- ・ 方 旭東 華東師範大学教授
東アジア近世思想史研究
受入教員 古勝准教授
期間 9月1日～2016年8月31日
- ・ 李 虹 中南民族大学副教授

- 日中哲学交流史
受入教員 石川教授
期間 9月7日～2016年9月7日
- ・蕭 紅顔 南京大学建築興城市規劃学院副教授
『墨子』にみえる先秦時代の建築理念
受入教員 岡村教授
期間 9月15日～12月25日
- ・鄭 威 武漢大学歴史学院副教授
出土文献から見た戦国秦漢郡県制の研究
受入教員 宮宅准教授
期間 9月16日～2016年9月15日
- ・祝 平一 中央研究院歴史語言研究所研究員
明, 清醫者の家訓
受入教員 瀬戸口准教授
期間 11月1日～11月30日
- ・Rupert COX マンチェスター大学人文学部上級講師
A Comparative Study of Coral Reefs in Okinawa and Guam as Militarized Environments.
受入教員 田中教授
期間 12月4日～2016年1月27日
- ・SOTOMURA Ataru University of Wuerzburg
Lektor (Senior Lecturer)
いわゆる宇宙仏のアイデンティティ
受入教員 岡村教授
期間 2016年2月29日～2016年4月1日

外国人共同研究者

- ・Scherrmann, Sylke Ulrike 青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査
受入教員 岩井教授
期間 2012年4月1日～2016年3月31日（継続）
- ・尹 寧 實 University of Tront, East Asian Studies Department Postdoctoral researcher
戦時期植民地朝鮮における内鮮一体論と民族超克論：崔南善を中心にして
受入教員 水野教授

- 期間 2014年8月1日～2016年2月29日（継続）
- ・TAJAN, Nicolas Pierre
トラウマと文明―「傷」の歴史からみた人類
受入教員 立木准教授
期間 4月1日～2017年3月31日
- ・Smith, Craig Anthony University of British Columbia Lecturer
中国におけるアジア主義の受容と展開
受入教員 石川教授
期間 8月27日～2016年1月31日
- ・張 西艶 北京外国語大学博士後期課程
日本における山海経についての考察
受入教員 富谷教授
期間 10月14日～2016年4月14日
- ・趙 恩成 Columbia University
北朝鮮のビナロン開発と李升基に関する研究
受入教員 水野教授
期間 9月22日～10月25日

受託研究員

- ・REDDY, Sreedevi CMR 教育機関, CMR 大学非常勤准教授
近代・平和主義・戦争協力：長谷川時雨を中心に
受入教員 田中教授
期間 9月1日～2016年8月31日

外国人研究生

- ・RÜSCH, Markus
親鸞論―救済論と生―に関する研究
受入教員 大浦先生
期間 4月1日～2017年3月31日
- ・YONG Tsun Nyen
仏教知識論の形成と東アジアの展開
受入教員 船山教授
期間 6月1日～2016年3月31日
- ・BUCKELEW, Kevin Delaney

唐・宋・元代中国の禅仏教における遁世者

受入教員 船山教授

期間 7月1日～2016年6月30日

・金 善美

10～14世紀東アジアにおける礼儀制度の比較
研究

受入教員 矢木教授

期間 9月1日～2016年2月29日

・陳 俊華

小を以て大を観る ―日本の早期仏教彫刻にお
けるミニチュア像の効能

受入教員 稲本准教授

期間 9月1日～2016年5月31日

・HOEISAETER, Tomas Larsen

古代仏教史

受入教員 稲葉教授

期間 10月1日～2017年3月31日

・楊 長玉

唐の西部境界について

受入教員 宮宅准教授

期間 11月2日～2016年2月29日

2015年12月30日刊

・ZINBUN number46

2016年3月刊

研究報告その他

・所報人文 第62号

2015年6月30日刊

・現代中国文化の深層構造 石川禎浩編

2015年6月30日刊

・京大人文研セミナー〈5〉『清玩 ―文人のまなざ
し』

2015年12月刊

・現代思想と政治 ―資本主義・精神分析・哲学
市田良彦・王寺賢太編

2016年1月19日刊

・東方學資料叢刊 第21冊 京大人文研蔵書印譜
(2) 矢木毅編

2016年1月20日刊

・漢唐法制史研究 富谷至編

2016年2月29日刊

・シナ＝チベット系諸言語の文法現象1 名詞句の
構造 池田巧編

2016年3月15日刊

・センター研究年報2015 ウィットテルン・クリス
ティアン編

2016年3月18日刊

・東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態 稲
本泰生編

2016年3月刊

・人種表象の日本型グローバル研究 竹沢泰子編

2016年3月刊

・第一次世界大戦を考える 藤原辰史編

2016年3月31日刊

出 版 物

紀要

・東方学報 90冊(紀要第178冊)

2015年12月20日刊

・東洋学文献類目 2013年度

2016年2月10日刊

・人文学報 第106号(紀要第176冊)

2015年4月30日刊

・人文学報 第107号(紀要第177冊)

2015年9月30日刊

・人文学報 第108号(紀要第179冊)